

TAISHO UNIVERSITY

Curriculum Guide

2025

「履修要項」は読むガイドです。

「履修要項2025」は2025年度入学生を対象としたものです。
卒業するまで使用します。大切に保管してください。

目次

Curriculum Guide 2025

はじめに.....4

- 1 学期・学修期間
- 2 授 業 時 間
- 3 休講・補講
- 4 遅刻・欠席
- 5 公共交通機関の遅延
- 6 欠席事由証明
- 7 緊急時における授業の取り扱い

履修にあたって >> 7

- 1 履修・単位.....8
- 2 試 験.....10
- 3 成 績.....12
- 4 進級・留年・退学・除籍.....14
- 5 卒 業.....15
- 6 卒業論文・卒業研究.....17
- 7 転学部・転学科・転コース.....18
- 8 留学、海外文化・語学研修.....19

教育課程の構造 20

第Ⅰ類科目 教育目標／授業科目一覧 >> 21

第Ⅱ類科目 ディプロマポリシー／履修系統図 授業科目一覧 >>

- 仏 教 学 部.....25
 - 仏教学科 仏教学専攻26
 - 仏教学科 仏教文化遺産専攻.....28
 - 仏教学科 宗学専攻30

人間学部	37
人間科学科	38
社会福祉学科	42
臨床心理学部	49
臨床心理学科	50
文 学 部	55
人文学科 哲学・宗教文化コース	56
人文学科 国際文化コース	58
日本文学科	62
歴史学科 日本史コース	66
歴史学科 東洋史コース	68
歴史学科 文化財・考古学コース	70
表 現 学 部	75
表現文化学科	76
メディア表現学科	80
地域創生学部	85
地域創生学科	86
公共政策学科	90

第Ⅲ類科目

第Ⅲ類科目の履修方法	95
第Ⅲ類科目一覧	97

規程 (大正大学履修規程／授業欠席の取扱いに関する規程／大正大学試験規程／大正大学学則 (抜粋)) 103

～ 在学生用チャットボットのご案内 ～

履修や授業に関すること、成績、資格登録等、質問したい内容を自然な言葉で入力して、送信すると、チャットボットがその質問に対して回答してくれます。



<使い方>

スマートフォンやタブレットなどのデバイスを使って、カメラアプリやQRコードリーダーアプリを起動し、QRコードをスキャンしてください。QRコードを読み込後に、例えば、「資格登録について質問したい」「履修登録の方法について質問がある」などと入力すると、テキストやリンクなどの形式で回答が表示されます。

「在学生チャットボット」をぜひご活用ください！

はじめに

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

大学では自ら積極的に学び、学修する姿勢が大切です。

本冊子は、4年間の履修計画を立て卒業までに必要な科目（単位）を修得するための手引です。

十分に活用してください。

授業日程や開講科目の変更、学則等規則の変更点については、「当該年度のガイダンス資料」を確認してください。

1 学期・学修期間

1年間の2つに区分し、前半を「春学期（第1クォーター・第2クォーター）」、後半を「秋学期（第3クォーター・第4クォーター）」とします。

4年間、16クォーターで学修する制度をクォーター制といいます。

2 授業時間

1回の授業時間は、100分です。

■授業時間帯

1 時 限	9 : 00 ~ 10 : 40
2 時 限	10 : 50 ~ 12 : 30
昼 休 み	12 : 30 ~ 13 : 20
3 時 限	13 : 20 ~ 15 : 00
4 時 限	15 : 10 ~ 16 : 50
5 時 限	17 : 00 ~ 18 : 40

■授業時間帯

N 1	18 : 00 ~ 19 : 40
N 2	19 : 50 ~ 21 : 30

3 休講・補講

授業の担当教員が公務、病気等のやむを得ない事情で授業ができなくなった場合は、休講となります。

その場合は、補講を行います。

■休講の確認方法

T-Poの「教務／授業関連」→「休講補講・教室変更、授業日程」→「休講補講・教室変更参照」に掲載されます。ただし、担当教員から教務課へ届け出がなかった場合は、掲載されません。

急病等で事前に告知できない場合は、授業直前の掲載になることがあります。

※休講の掲示や連絡がなく、授業開始から30分を過ぎても担当教員が教室に現れない場合は、教務課へ申し出て指示を受けてください。

■補講の確認方法

T-Poの「教務／授業関連」→「休講補講・教室変更、授業日程」→「休講補講・教室変更参照」に実施方法について掲載されます。

※補講に出席することができない場合は、直接担当教員に相談してください。

●T-Po

大正大学ポータルシステム【T-Po】は、インターネットが使える環境があれば、各種サービスを利用することができるシステムです。

休講情報や履修に関すること、時間割の変更等、学生に対する伝達事項がT-Poに掲載情報としてアップされます。こまめにT-Poを確認するようにしてください。

掲示情報を確認しなかったことを理由に、伝達事項に対する責任を免れることはできません。

掲示内容が理解できない場合には、直接教務部教務課窓口にお問い合わせください。電話やメールによる問い合わせは受け付けていません。

4 遅刻・欠席

単位認定を受けるためには、授業に毎回出席することが原則です。

■欠席・遅刻の場合

理由があり、授業を欠席・遅刻する（した）場合は、直接担当教員へ申し出てください。
教務課から教員へ連絡はしません。
遅刻・欠席の取り扱いについては担当教員の判断に委ねられているので、指示に従ってください。

5 公共交通機関の遅延

公共交通機関の遅延により、授業へ遅刻、欠席した場合は、使用した各交通機関の「遅延証明書」を受け取り、**担当教員へ直接提出**してください。教務課から教員への受け渡しはしていません。
遅刻・欠席の取り扱いについては担当教員の判断に委ねられているので、指示に従ってください。
(注意) 路線バスは一般的に遅延証明書の発行を行いません。交通機関の乱れが予測される場合は、遅れを見込んで早く家を出る等の自衛手段をとってください。

6 欠席事由証明

下記に掲げる事由による欠席は、大学がその事由証明を行うことがあります。
証明書交付後、担当教員に提出してください。
証明書の取り扱いについては、当該科目の担当教員に委ねられています。

内 容	担当部署
各種資格課程の学外学習及び実習等	教務課
担当教員が引率・指導する大学公認の学外学習、調査、見学、実技及び研修旅行	
忌引き（大学で定めた日数）	学生課
大学が認めた課外活動	
骨髄バンク等移植に伴うドナー登録及び検査	
学校保健安全法で定められている感染症による出席停止	
裁判員制度で裁判員として出廷する場合	

※上記理由により欠席をする場合は、事前に担当部署にて申請を行ってください。
※欠席事由証明書は欠席する授業の1週間前を目途とし学生自身が担当教員へ提出してください。なお試験の欠席は10ページを参考にしてください。
※出席停止の場合は改善後すみやかに申請を行ってください。
※各内容に対して証明できる書類が必要です。

7 緊急時における授業の取り扱い

交通機関の乱れや自然災害等、緊急事態が発生した際の本学の授業の取り扱いについては、以下の表のとおりです。

	午前6時段階	午前10時段階	午後2時段階
交通機関運行中止（※1）	1・2限休講	3・4限休講	5・N1・N2限休講
気象警報等（※2）	1・2限休講	3・4限休講	5・N1・N2限休講
大規模地震（※3）	1・2限休講	3・4・5・N1・N2限休講	—

（※1）首都圏JR、首都圏大手私鉄各社、東京メトロ、都営地下鉄のうち3社が全面的に運行中止の場合。
（※2）「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」または特別警報が東京23区東部もしくは西部に発令された場合。
（※3）該当時間において、警戒宣言解除及び判定会が解散されていない場合。

上記事態に伴う休講情報は大学ホームページでお知らせされますので、適宜確認してください

履修にあたって

- 1 履修・単位
- 2 試 験
- 3 成 績
- 4 進級・留年・退学・除籍
- 5 卒 業
- 6 卒業論文・卒業研究
- 7 転学部・転学科・転コース
- 8 留学、海外文化・語学研修

1

履修・単位

履修登録をした授業科目の評価が達成目標に到達した場合、当該科目の単位が与えられます。

1. 履修登録

履修登録とは、その学期に履修しようとする科目をT-Po上で登録する手続きのことです。シラバス・時間割を確認し、十分に検討したうえで履修計画を立ててください。

●履修登録には、①T-Poの履修登録画面から行う方法と、②履修人数に制限があるため、事前登録画面から「抽選」や「先着」としてエントリーする方法があります。

●履修登録期間は、ガイダンス資料やT-Poで案内します。

登録日程をよく確認し、期間内に履修登録を完了してください。期間外の受付は行いません。

■履修登録上の注意

1. 履修登録（科目の追加・削除を含む）は、必ず履修登録期間中に行ってください。
2. 既単位修得済科目は、履修することはできません。
3. 自分の学年より、配当年次が上の科目を履修することはできません。
（例：2年次在籍時に3年次に配当されている科目を履修することはできません）
4. 事前登録（抽選）科目は、当選した場合削除することはできません。
5. 先着登録科目は、一度登録すると削除することはできません。
6. 履修希望者が多い場合は、授業の特性に鑑み、受講生を制限することがあります。
7. 登録画面上にエラーが表示された場合、**履修登録は完了できません**。表示されている内容に従い、**各自で修正・削除**を行ってください。
8. 履修登録完了後は、必ず履修登録画面を印刷またはスクリーンショットをするなどし、記録として手元に残すようにしてください。登録ができているか確認してください。確認を怠ったことによる履修登録期間外での登録、削除、変更は行いません。
9. 正しく登録できていない科目（時間割に反映されていない科目）については、授業に出席しても単位を修得することはできません。

2. 単 位

授業の単位数は、すべて学則に定められています。単位は、その学習量、学び方に基づき授業の種類・形態によって算出方法が異なります。教室内での授業のほかに、教室外での事前事後学習の時間も含めて成り立っています。なお、1単位につき15時間から45時間の学習が必要です。

3. 制限単位（キャップ制）

学期・クォーターごとに無理なく単位を修得できるよう、履修できる単位数に上限を定めています。

■制限単位数

	学部学科	春学期		秋学期	
		第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター
制限単位	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教学部 ・人間学部 ・臨床心理学部 ・文学部 	12	12	12	12
	<ul style="list-style-type: none"> ・表現学部 ・地域創生学部 	12	12	10	12

※履修指導に基づき履修してください。

〈制限単位に含むもの〉

・第Ⅰ類科目 ・第Ⅱ類科目 ・第Ⅲ類科目

〈制限単位に含まないもの〉

・卒業論文、卒業研究 ・集中講義

※学科によっては異なる場合がありますので確認すること。

◆単位数の計算方法等詳細については、「当該年度のガイダンス資料」を確認してください。

2 試 験

試験は、筆記・レポートあるいは口述試問によって実施します。
評価方法についてはシラバスを確認してください。大正大学では定期試験期間を設けていないため、各授業担当教員指示のもと授業内で実施します。巻末の「大正大学試験規程」もあわせて確認してください。

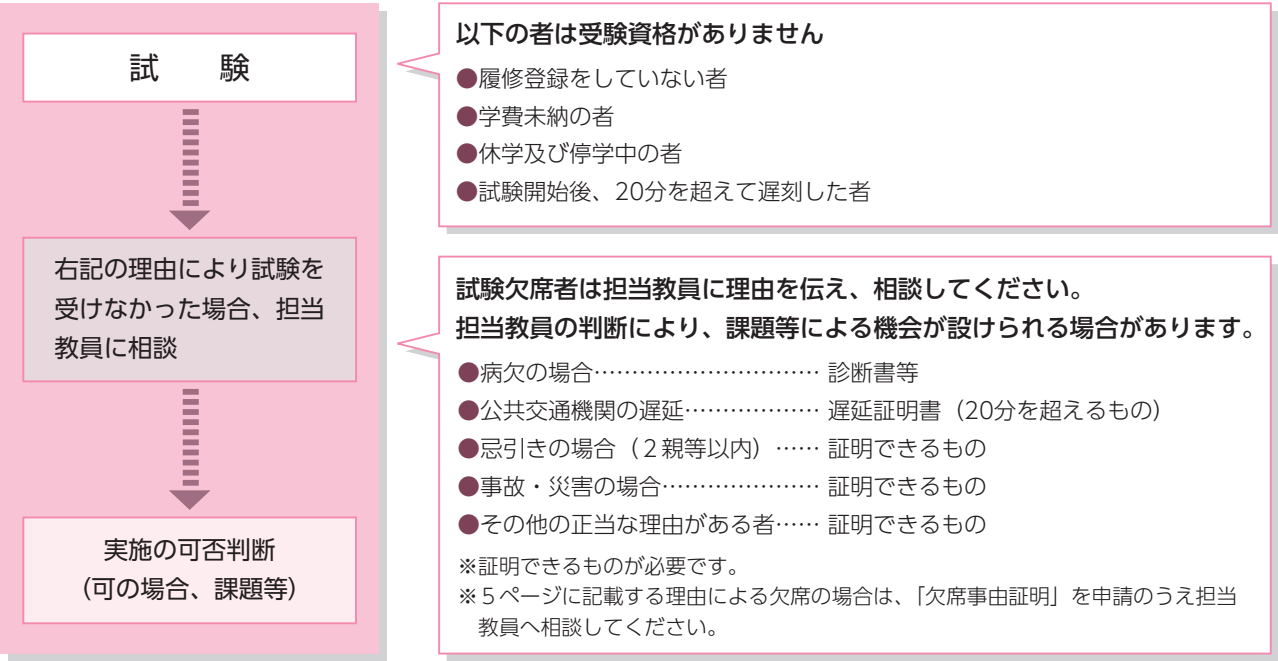
1. 試験種類と実施時期

試 験	授業時間内で実施する試験
再 試 験	4年生最終学期に限り行う場合があります

2. 授業内試験

試験は授業時間内で行います。「受験資格」については以下のとおりです。

■試験の流れ



3. 試験の心得

- 学生証は常に携帯し、試験監督の求めに応じて提示してください。
- 答案用紙が配布され、試験監督より指示があり次第、学籍番号・氏名等所定の事項を記入してから試験を開始してください（試験場から答案用紙を持ち出すことはできません）。
- 携帯電話等の電源は必ず切ってください。
また、机上には許可された物以外は置くことができません。
- 試験への持込みは、許可されたもの以外は一切認めません。
また、「ノート持込み可」の場合のノートとは自筆のノートのみとし、コピーしたものは一切認めません。

4. 不正行為

試験は、学生各自の科目履修の成果を確認するものであり、その意に反する行為は不正行為とみなします。

試験監督の注意・指示に従わない場合は、その試験は無効とします。

不正行為があった場合は、学部長に報告したのち、代議員会の議を経て不正行為を行った者に対しては、**当該学期の履修科目すべてをZ評価**としたうえで、学則第61・62条（譴責、謹慎、停学、退学）により処分されます。

以下の行為があった場合、不正行為とみなします。

- 試験場において監督者の指示に従わないとき
- 当該試験において許可されている以外の方法で解答を得たとき
- 他人の答案を盗み見等のカンニング行為をしたとき
- 当該授業の履修登録者以外が履修登録者と偽って受験したとき
- 他人の答案又は成果物を複写もしくは盗用したとき

5. 課題の提出

授業で課された課題は、担当教員の指示に従い提出してください。

事務局は一切対応しません。提出の指示があった場合は、必ず提出方法を確認し、提出期限を厳守しなければなりません。

授業での指示事項など、すべて自分で確認しなければなりません。提出方法、期日を授業内でよく確認してください。これらの確認を怠ったことによる不利益は、すべて自分自身が負うことになります。

3 成績

授業の成績評価は、授業への取り組み・試験・レポート等を総合的に勘案して評価します。

成績評価は、以下のとおりAA、A、B、C、及びTを合格、D・Zは不合格とします。

1. GPA（学業平均値）制度

授業ごとの成績評価に加え、GPA（Grade Point Average / 学業平均値）を算出します。

GPAは、一定期間の履修と学習の状況を掌握することによって、適切できめ細やかな履修や学修に関するアドバイスを可能とし、成績上位者を表彰する客観的なデータとして利用します。

2. GPAの算出方法

GPAは、下の算出例のとおりにZ評価を含め、全ての履修科目を対象として算出しますので、履修登録を取り消す必要がある場合は、必ず修正登録期間中に修正してください。

■GPAの算出例

2単位の科目を3科目履修し、成績が〈AA・A・Z〉評価の場合のGPAと判定

$$\text{GPA} = \frac{\text{AA (4.0)} \times \text{単位数 (2)} + \text{A (3)} \times \text{単位数 (2)} + \text{Z (0)} \times \text{単位数 (2)}}{\text{登録総単位数 (不合格の科目の単位数も分母に加算)}}$$

$$= \frac{4.0 \times 2 + 3 \times 2 + 0 \times 2}{6} = 2.33$$

3. 成績評価

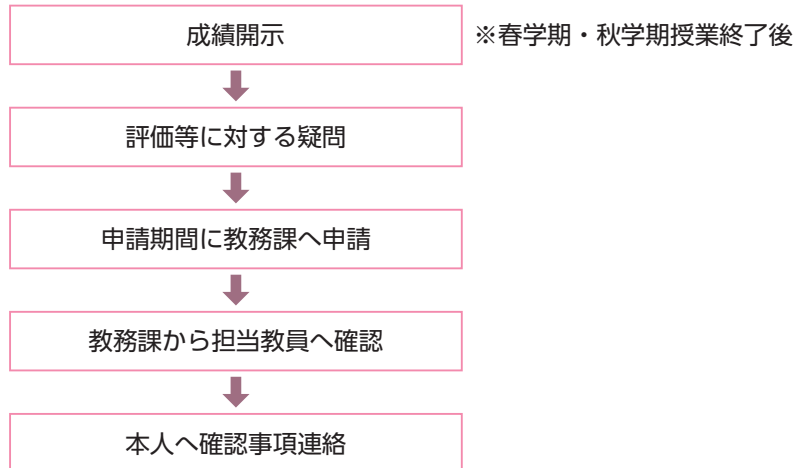
判定	評語	ポイント	評価基準	
合格	AA	4.0点	Excellent : 秀	目標を大きく超えて優秀
	A	3.0点	Very good : 優	目標を超えて優秀
	B	2.0点	Good : 良	目標を十分に達成している
	C	1.0点	Pass : 可	単位を認める最低限の基準に達している
	T	—	Recognition : 認定	目標を達している 本学の授業科目における合格判定（上記AA～Cを除く） 及び他大学等による単位認定
不合格	D	0.0点	Failure : 不可	単位を認める最低限の基準に達していない
	Z	0.0点	No learning : 否	学習行動が見られない

※成績証明書には、合格科目のみ記載されます。

4. 成績評価確認申請

開示された前学期の成績評価で、不合格〈D評価〉、〈Z評価〉となっている科目に対し、明らかな疑義がある場合のみ、成績評価確認申請を行うことができます。申請期間に教務課へ申請してください。

■成績評価確認申請の手順



◆申請期間や申請方法など詳細は、T-Poやガイダンス資料にてお知らせします。

ただし、以下の場合は成績評価に関する疑義及び質問を一切受け付けないので注意してください。

- 教務課を通さずに、疑問点を直接教員に問い合せ、その結果を教務課に届け出た場合
- 指定期間外での申請

4 進級・留年・退学・除籍

1. 進 級

次の学年（1年次から2年次、2年次から3年次、3年次から4年次）へ進級するためには、当該学年に1年（4クォーター）以上在学し、かつ以下の基準を満たさなければなりません。

1年 → 2年	総修得単位数が20単位以上であること
2年 → 3年	総修得単位数が62単位以上であること
3年 → 4年	総修得単位数が90単位以上であること

2. 留 年

進級基準を満たさない場合、留年となります。

留年となった場合には、半期（1学期または2クォーターを単位として）ずつ在学しなければならない期間が延長されます。

3. 退学・除籍

以下の場合、大正大学学則第50条、履修規程第14条により退学となります。

- 第1学年、第2学年、第3学年の各学年において、2年（8クォーター）在学してもなお、次学年に進級できない者
- 在学した直近3学期（1.5年）連続して、各学期のGPA値が1.0未満の者

以下の場合、学則第51条により除籍となります。

- 休学期間が2年（4学期）を超えても復学できない者
 - 8年（16学期）在学し、卒業できない者
- 編入学生は、4年（8学期）在学し、卒業できない者

5 卒業

本学に4年以上在学し、所定の授業科目（各学科の卒業要件を参照）を履修し、単位を修得した者は卒業となり、下表のとおり学士の学位を授与します。

1. 卒業の要件

卒業に必要なとなる単位数を確認のうえ、修得もれのないように注意してください。
必修科目は必ず修得しなければならないので注意してください。

■卒業要件単位数

科目分類		単位数
人間の探究 I～Ⅲ		6単位必修
社会の探究 I～Ⅲ		6単位必修
自然の探究 I～Ⅲ		6単位必修
総合英語 I～Ⅲ		3単位必修
データサイエンス I～Ⅵ		6単位必修
リーダーシップ I～Ⅲ		3単位必修
第Ⅰ類科目計		30単位必修
第Ⅱ類科目	基礎部門 専門部門	学科別表及び学科の指導による
	卒業論文 卒業研究	8単位選択必修
第Ⅱ類科目計		70単位以上
第Ⅲ類科目		24単位以上
計 (第Ⅰ類+第Ⅱ類+第Ⅲ類)		124単位以上

- ◆卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。
- ◆必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。
ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

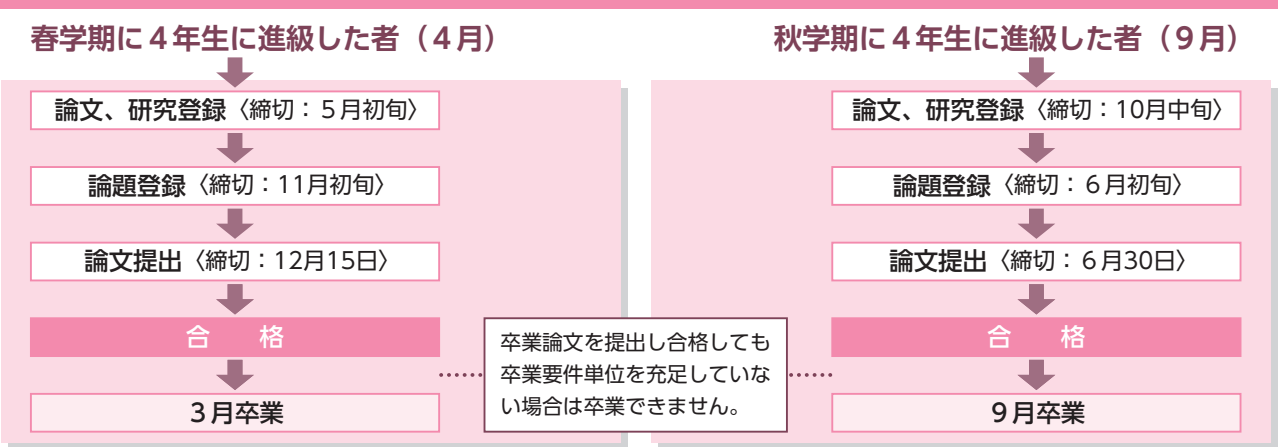
2. 学 位

学 部 名	学 科 名	学位の名称
仏 教 学 部	仏 教 学 科	学士（仏教学）
人 間 学 部	人 間 科 学 科 社 会 福 祉 学 科	学士（人間科学） 学士（社会福祉学）
臨 床 心 理 学 部	臨 床 心 理 学 科	学士（臨床心理学）
文 学 部	人 文 学 科 日 本 文 学 科 歴 史 学 科	学士（人文学） 学士（日本文学） 学士（歴史学）
表 現 学 部	表 現 文 化 学 科 メディア表現学科	学士（表現文化） 学士（メディア表現）
地 域 創 生 学 部	地 域 創 生 学 科 公 共 政 策 学 科	学士（経済学） 学士（公共政策学）

6 卒業論文・卒業研究

学位を授与されるためには、計1年間の指導を受けただうえで、卒業論文・卒業研究を学科へ提出し、審査及び試験に合格し、卒業要件を満たす必要があります。

1. 卒業論文・卒業研究の流れ



※卒論・卒研の登録期間、提出期間、提出先は学科により異なります。学科の指示に従ってください。

◆卒業論文、卒業研究登録
4年次に進級した際、卒業論文提出の意思確認を行います。提出予定の学生は必ず期間内に登録を行ってください。一度登録したら、卒業延期になった場合でも、登録履歴が引き継がれることから、再度登録する必要はありません。

※卒業論文の履修登録は論題登録後に教務部で行います。卒論・卒研は制限単位に含まれません。

◆論題登録
論題は、副題を含めて60字以内にまとめてください。学科によっては、卒業制作をもって卒業論文に替えることができます。卒業制作については、学科の指示に従ってください。
卒業延期になった場合、論題登録は、登録履歴が引き継がれないことから、提出しようとする期にあわせて登録が必要です。

2. 卒業論文の体裁

■基本（手書き・ワード）

表紙、目次	規定文字数に含まない
序論、本論、結論、注釈	2万字以上
参考文献	規定文字数に含まない

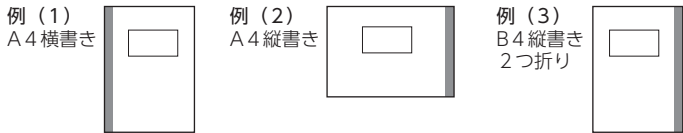
※小説・詩等、学科によって異なる場合があるので、指導教員の指示に従うこと。

■体裁（ワード：感熱紙不可、手書き：鉛筆書き不可）

	用紙サイズ	字詰め	書式	綴じ位置（下記の例参照）
ワード・日本語	A 4	40字×40行	横書	例（1）
ワード・英 語	A 4	指導教員の指示	横書	例（1）
ワード・日本語	A 4	40字×40行	縦書	例（2）
手書き・日本語	B 4	400字	縦書	例（3）2つ折

※学科によって異なる場合があるので、指導教員の指示に従うこと。

■綴じ位置の例



◆論文作成時の注意

1. 本文に必ずページ数を記入すること。
 2. 目次の各タイトルにそれぞれのページを記入すること。
 3. 図表・グラフなどは、本文中に入れるのではなく、章や節の末尾にまとめること。
 4. 綴じ際には上記の場所で綴じること。紐綴じの場合は、解けないように中綴じすること。
ファイルなど、簡単に取り外せる状態のものは受け付けられないので注意すること。
- ※詳細は各学科に問い合わせること。

7 転学部・転学科・転コース

他学部・他学科、同一学科内の他コースへの転籍を希望する者（1・2年次のみ）は、当該学科・コースに欠員のあ
る場合のみ、転学部・転学科・転コース試験を実施します。

1. 受験資格

■転学部・転学科 受験資格

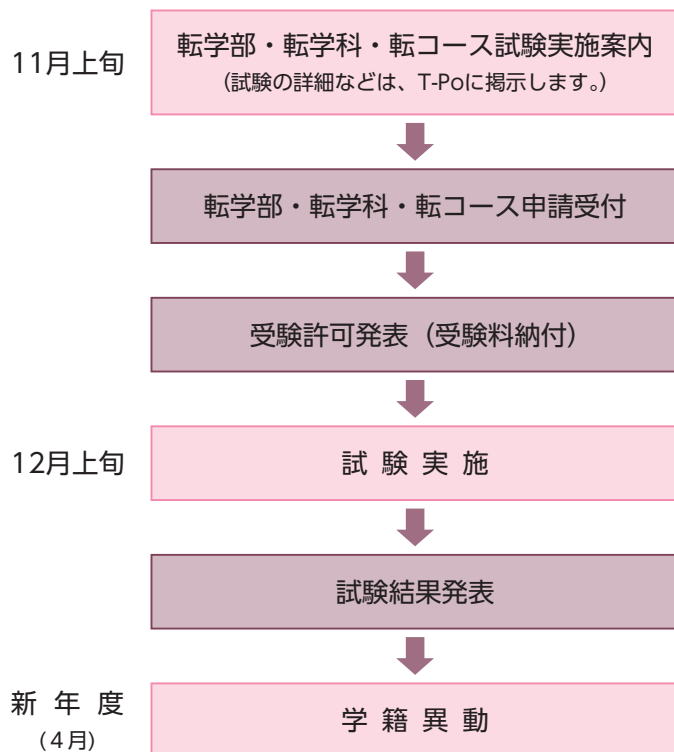
1 年 次	進級基準を満たしている者及び満たす見込みの者かつ、 1年次春学期（第1フォーター・第2フォーター）のGPA値が3.2以上の者
2 年 次	進級基準を満たしている者及び満たす見込みの者かつ、 2年次春学期（第1フォーター・第2フォーター）までのGPA値が3.2以上の者

◆GPA →詳細はP12

■転コース 受験資格

進級基準をすでに満たしている者あるいは満たす見込みの者

2. 転学部・転学科・転コースの流れ



8

留学、海外文化・語学研修

留学（協定留学、認定留学）、海外文化・語学研修の詳細は以下のとおりです。

	協 定 留 学	認 定 留 学	海外文化・語学研修
期 間	●半年あるいは1年	●半年あるいは1年	●1カ月程度
形 態	●姉妹校（協定校）との協定により、相互に学費を免除して相手校で学ぶ交換留学制度（一部例外あり）。	●協定校以外の大学に認められた留学先で、学費免除なしで学ぶ留学制度。	●大学主催の語学力および異文化理解向上を主な目的とした海外研修。
単 位	●単位認定	●単位認定	●単位認定
資 格	●協定留学生選抜試験に合格し、各留学先における言語の外国語資格検定証明書が必要。	●留学先大学の入学許可書又は、受け入れ承諾書に加え、留学先の履修課程及び授業科目の詳細書類が必要。	●学部生が対象
その他	●協定校での授業料の一部または全額の免除、及び寮費の減免など（各協定校の条件による）。	●正規の高等教育機関で学位授与権を有する大学を留学先とし、留学先の授業料は自己負担。	●春期休業期間中に協定校で開講される集中講座。
奨学金 奨励金	●海外特別留学奨学金 ●留学先により協定留学生奨学金あり。	●海外特別留学奨学金	●海外語学研修奨励金 ●研修先により協定留学生奨学金あり。
留学先	●アメリカ ハワイ大学 ●ドイツ ミュンヘン大学 ●タイ タマサート大学 ●韓国 東國大学校・東西大学校・ 金剛大学校 ●中国 河南大学・上海大学	●学生本人による選定	●ハワイ大学 ●ミュンヘン大学 ●東西大学校

※在学中に協定校が変わる場合があります。

教育課程の構造

大正大学では、学びの目的によって、科目分類を設けています。
これらの科目分類ごとに、卒業に必要な単位が設定されており、
各学科のページに示されるカリキュラムマップ（履修する順、科目の関係図）を参考にしながら履修を進めることで、専門性の修得やキャリア形成に必要な知見を重ねることができます。
履修にあたっては、学科のガイダンスでの指導を踏まえ、学修を進めてください。

科目分類

第Ⅰ類科目

→22ページを参照

大学での学びに必要な共通科目（アカデミックスキルズや探究手法を通じた協働、実践力を身につけることを目的とした科目）

第Ⅱ類科目

→25ページ以降、各学科のページを参照

学科が示すカリキュラムマップにより体系的に修得する学部学科の専門の学び（講義、演習、ゼミナール、実習など）を、様々な形態の授業を通じ、知り、考え、伝え、議論し、まとめ、専門性を高める科目

第Ⅲ類科目

→95ページを参照

第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目をベースに、社会との接続を、実践しながら学ぶ科目学生のキャリア志向によって、

免許・資格取得（資格登録が必要）のための学び

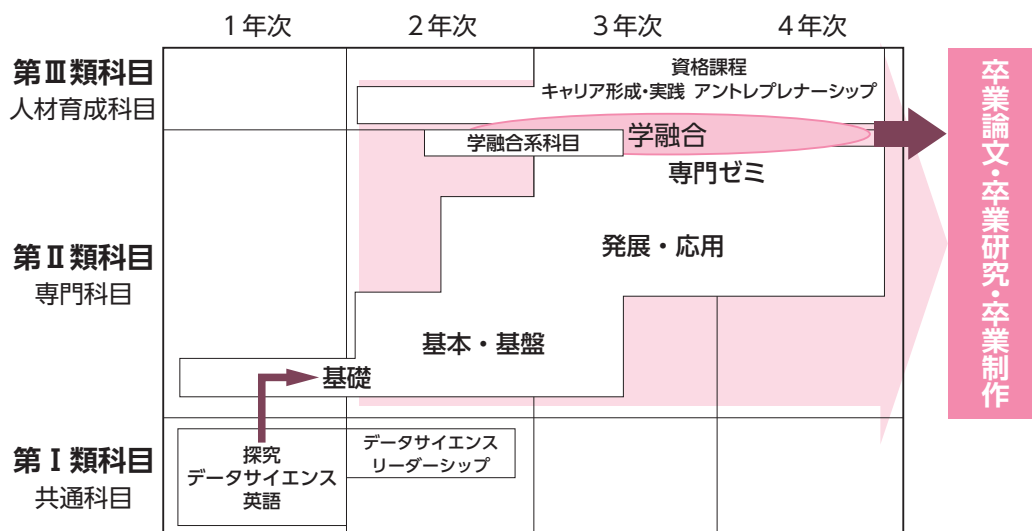
企業研究や地域との協働による学び

専門性をより高めるための学び

アントレプレナーシップ育成教育プログラム

などがある

■カリキュラムツリーの基本モデル



第Ⅰ類科目

教育目標

第Ⅰ類科目では、主体的に学ぶ姿勢を養うとともに、大学での学びに必要な学修スキルや汎用的な技能を修得することで、本学の求める学力『「4つの人となる」ための10の力』を身につけるための基盤を育むことを目指します。

①「探究」科目の教育目標

人間（自己理解・キャリア意識の促進）、社会（仲間との協働による社会課題への取り組み）、自然（自然をめぐる問題の探究）をテーマとして各科目で探究することを通じて、主体的に学ぶ姿勢を高め、2年次以降の学修や研究に繋がる資質・能力を養います。

◆特に重点を置いて育成する力：

- ・人間の探究：自分自身を理解する力（自灯明）
- ・社会の探究：他者と対話し、協働する力（共生）
- ・自然の探究：自分事として問いを立てる力（自灯明）

②「総合英語」科目の教育目標

対面授業では多様なトピックの中から英語の表現を学び、ペアワーク等の活動を通じて英語のコミュニケーション力を高めます。eラーニングシステムを使ったオンデマンド授業では文法の理解を深めたり、TOEIC演習を行い、自律的な学修を通じて総合的な英語力を強化します。

◆特に重点を置いて育成する力：

- ・自分らしい方法で表現する力（中道）
- ・多様性を尊重する力（共生）

③「データサイエンス」科目の教育目標

主観的な判断ではなく、データをもとに意思決定を行うデータドリブンな思考を高め、社会の課題を解決し、価値を創造していく人材となることを目指します。

◆特に重点を置いて育成する力：

- ・根拠に基づいて思考する力（中道）

④「リーダーシップ」科目の教育目標

人間の探究で取り組んだ「自分自身を理解する力」をさらに高め、卒業後の進路について早期から検討を開始し、卒業後のキャリアプランと行動計画を立て、3年次の学修につなげます。

◆特に重点を置いて育成する力：

- ・自分自身を理解する力（自灯明）
- ・みずからの主張を吟味し、ふりかえる力（中道）

第Ⅰ類科目

授業科目一覧

授業科目の名称	履修年次			単位数	備 考
人間の探究Ⅰ	1			2	30単位必修
人間の探究Ⅱ	1			2	
人間の探究Ⅲ	1			2	
社会の探究Ⅰ	1			2	
社会の探究Ⅱ	1			2	
社会の探究Ⅲ	1			2	
自然の探究Ⅰ	1			2	
自然の探究Ⅱ	1			2	
自然の探究Ⅲ	1			2	
総合英語Ⅰ	1			1	
総合英語Ⅱ	1			1	
総合英語Ⅲ	1			1	
データサイエンスⅠ	1			1	
データサイエンスⅡ	1			1	
データサイエンスⅢ	1			1	
データサイエンスⅣ		2		1	
データサイエンスⅤ		2		1	
データサイエンスⅥ		2		1	
リーダーシップⅠ		2		1	
リーダーシップⅡ		2		1	
リーダーシップⅢ		2		1	

第Ⅱ類科目

仏教学部

人間学部

臨床心理学部

文学部

表現学部

地域創生学部

仏教学部



仏教学科

1. 基礎ゼミナール

1・2年生を対象とした専攻別のゼミナール。少人数のクラス編成で、大学での学修全般に関するオリエンテーションをはじめ、各専攻の基礎的な知識及び上級学年で学ぶ専門科目の内容や学修方法について指導する。

また担当教員と学生生活や学修について話し合う場でもあり、有意義な4年間を送るための第一歩として受講する必修科目である。

2. 基礎・専門・法儀部門

仏教学全般の基礎や専攻の専門的学修をしながら、3年次の専門ゼミナール、4年次の卒業論文・卒業研究に展開していくための科目群である。

専攻の枠組みを超えて幅広い科目を学ぶことができるが、各自の研究目標にそった科目選択が望まれる。

3. 専門ゼミナール、卒業論文・卒業研究

卒業論文・卒業研究は大学での学修の集大成である。3年次より専門ゼミナールでテーマの決定や資料収集など、担当教員より指導を受けながら卒業論文・卒業研究を完成させていく。

また、よりよい成果があげられるよう、1年生のうちから十分な基礎学修を積み上げることが大切である。

仏教学部 仏教学科 仏教学専攻

ディプロマポリシー

仏教学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、仏教学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

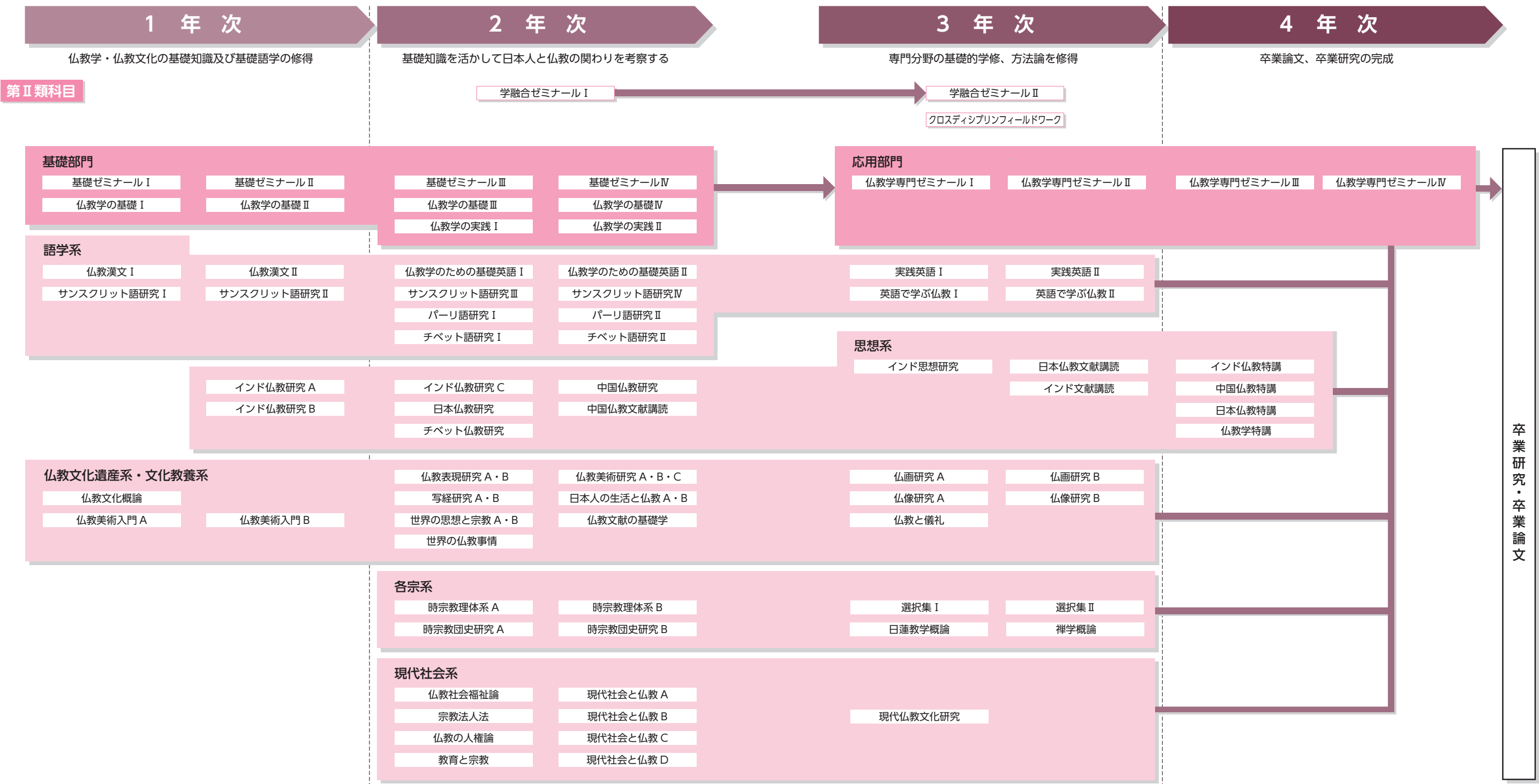
- ① 仏教学科の学び（仏教学・仏教文化遺産・宗学）に関する幅広い知識と研究方法を身につけている。→「物事の本質を見極める力」「自分事として問いを立てる力」
- ② 仏教学科の学びで得た知識と研究方法や技能を、現実社会の中で活用できる。→「新たな価値を創造する力」「他者と対話し、協働する力」

思考・判断・表現

- ③ 仏教学科におけるさまざまな学問的領域で得た知識や研究方法を通じて、多面的に思考・判断し、物事の本質を見極める力を持っている。→「物事の本質を見極める力」「根拠にもとづいて思考する力」
- ④ 自ら学び体験したことを、他者や地域社会・世界に向けて、独創的な方法で、説得力をもって表現することができる。→「根拠にもとづいて思考する力」「自分らしい方法で表現する力」
- ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑥ より良い社会の形成と発展のために、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、仏教学科での修学内容を主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身につけている。→「多様性を尊重する力」「他者と対話し、協働する力」



仏教学部 仏教学科 仏教文化遺産専攻

ディプロマポリシー

仏教学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していかうとする学生を育成するために、仏教学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

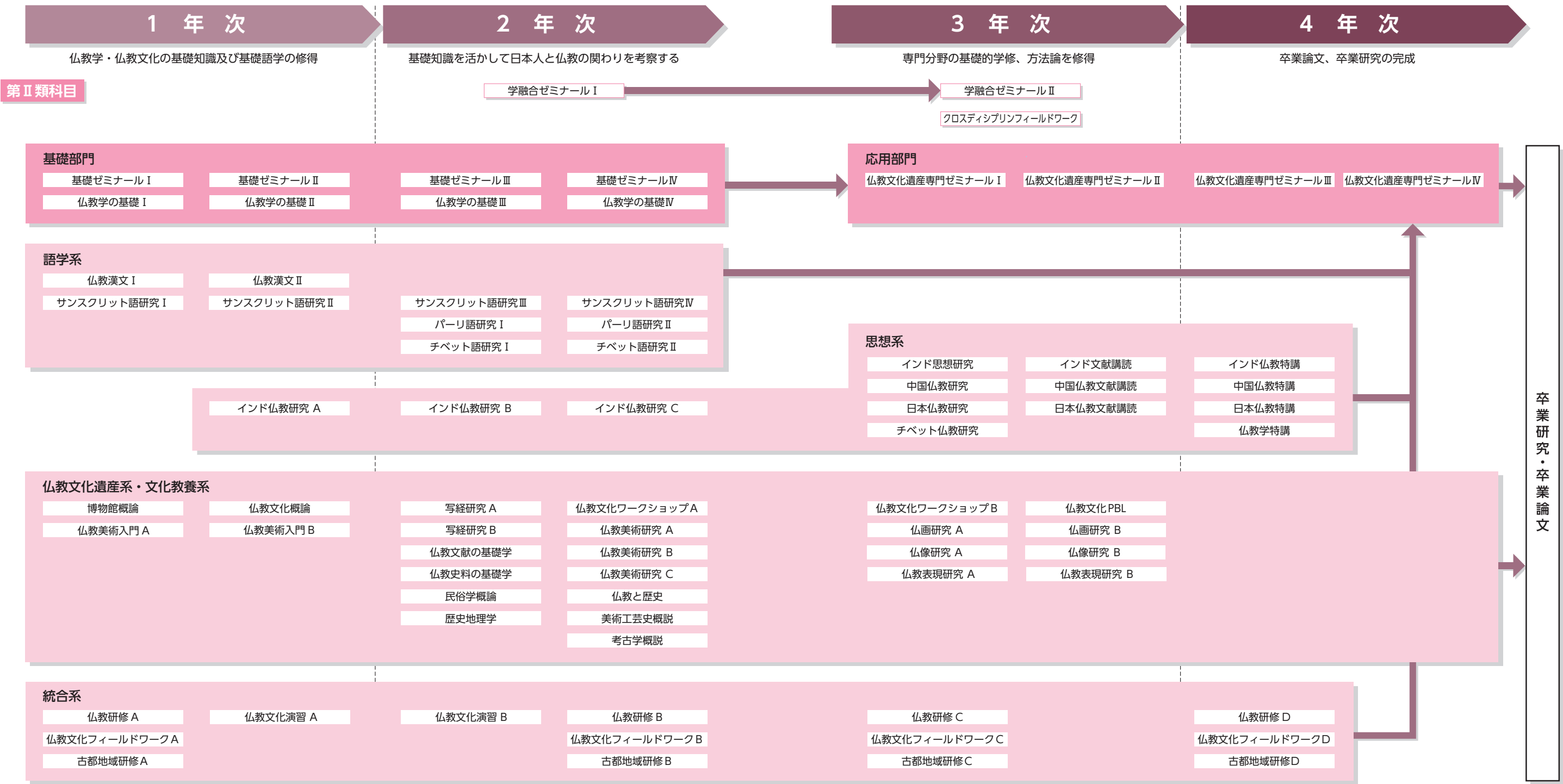
- ① 仏教学科の学び（仏教学・仏教文化遺産・宗学）に関する幅広い知識と研究方法を身につけている。→「物事の本質を見極める力」「自分事として問いを立てる力」
- ② 仏教学科の学びで得た知識と研究方法や技能を、現実社会の中で活用できる。→「新たな価値を創造する力」「他者と対話し、協働する力」

思考・判断・表現

- ③ 仏教学科におけるさまざまな学問的領域で得た知識や研究方法を通じて、多面的に思考・判断し、物事の本質を見極める力を持っている。→「物事の本質を見極める力」「根拠にもとづいて思考する力」
- ④ 自ら学び体験したことを、他者や地域社会・世界に向けて、独創的な方法で、説得力をもって表現することができる。→「根拠にもとづいて思考する力」「自分らしい方法で表現する力」
- ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑥ より良い社会の形成と発展のために、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、仏教学科での修学内容を主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身につけている。→「多様性を尊重する力」「他者と対話し、協働する力」



仏教学部 仏教学科 宗学専攻

ディプロマポリシー

仏教学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、仏教学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

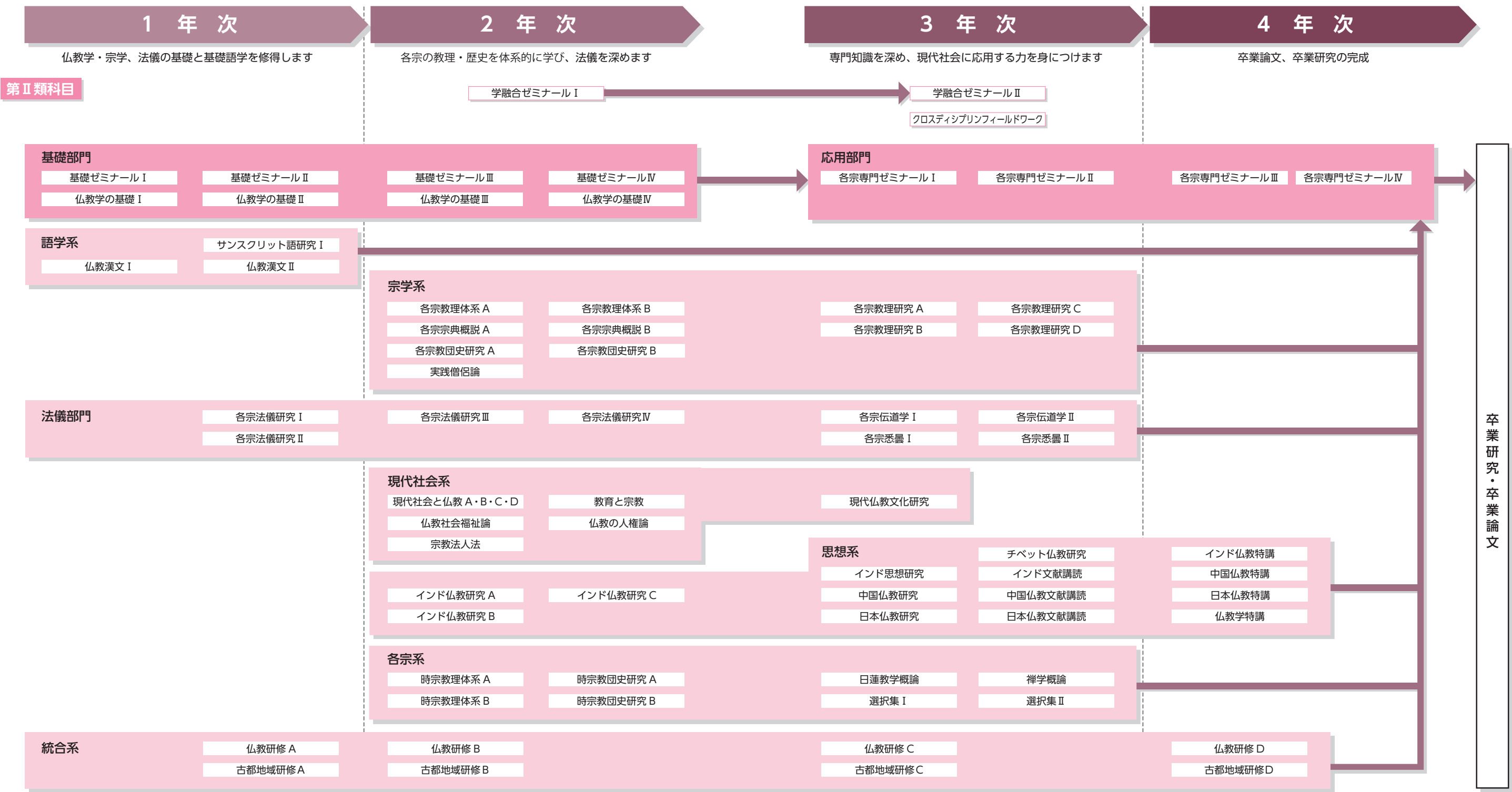
- ① 仏教学科の学び（仏教学・仏教文化遺産・宗学）に関する幅広い知識と研究方法を身につけている。→「物事の本質を見極める力」「自分事として問いを立てる力」
- ② 仏教学科の学びで得た知識と研究方法や技能を、現実社会の中で活用できる。→「新たな価値を創造する力」「他者と対話し、協働する力」

思考・判断・表現

- ③ 仏教学科におけるさまざまな学問的領域で得た知識や研究方法を通じて、多面的に思考・判断し、物事の本質を見極める力を持っている。→「物事の本質を見極める力」「根拠にもとづいて思考する力」
- ④ 自ら学び体験したことを、他者や地域社会・世界に向けて、独創的な方法で、説得力をもって表現することができる。→「根拠にもとづいて思考する力」「自分らしい方法で表現する力」
- ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑥ より良い社会の形成と発展のために、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、仏教学科での修学内容を主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身につけている。→「多様性を尊重する力」「他者と対話し、協働する力」



第Ⅱ類科目 仏教学部 仏教学科 授業科目一覧

部 門		授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通		学融合ゼミナールⅠ	2	2	
		学融合ゼミナールⅡ	3	2	
		クロスディシプリンフィールドワーク	3	2	
基 礎 部 門		仏教学の基礎Ⅰ	1	2	必修
		仏教学の基礎Ⅱ	1	2	
		仏教学の基礎Ⅲ	2	2	
		仏教学の基礎Ⅳ	2	2	
		仏教学の実践Ⅰ	2	2	必修
		仏教学の実践Ⅱ	2	2	
	基礎ゼミナールⅠ	1	2		
	基礎ゼミナールⅡ	1	2		
		基礎ゼミナールⅢ	2	2	
		基礎ゼミナールⅣ	2	2	
専 門 部 門	語 学 系	仏教漢文Ⅰ	1	2	必修
		仏教漢文Ⅱ	1	2	
		サンスクリット語研究Ⅰ	1	2	仏教学・宗学専攻必修
		サンスクリット語研究Ⅱ	1	2	
		サンスクリット語研究Ⅲ	2	2	
		サンスクリット語研究Ⅳ	2	2	
		パーリ語研究Ⅰ	2	2	
		パーリ語研究Ⅱ	2	2	
		チベット語研究Ⅰ	2	2	
		チベット語研究Ⅱ	2	2	
		仏教学のための基礎英語Ⅰ	2	2	仏教学専攻必修
		仏教学のための基礎英語Ⅱ	2	2	
		仏教学のための実践英語Ⅰ	3	2	
		仏教学のための実践英語Ⅱ	3	2	
		英語で学ぶ仏教Ⅰ	3	2	
		英語で学ぶ仏教Ⅱ	3	2	
	思 想 系	インド思想研究	3	2	仏教学専攻12単位以上 宗学専攻6単位以上 履修すること
		インド仏教研究A（アビダルマ）	1	2	
		インド仏教研究B（大乘経典）	2	2	
		インド仏教研究C（大乘思想）	2	2	
		インド文献講読	3	2	
		インド仏教特講	4	2	
		チベット仏教研究	2	2	
		中国仏教研究	2	2	
		中国仏教文献講読	3	2	
		中国仏教特講	4	2	
		日本仏教研究	2	2	
		日本仏教文献講読	3	2	
		日本仏教特講	4	2	
		仏教学特講	4	2	
	文 化 教 養 系	世界の思想と宗教A	2	2	－隔年開講
		世界の思想と宗教B	2	2	－隔年開講
		世界の仏教事情	2	2	
		日本人の生活と仏教A	2	2	－隔年開講
		日本人の生活と仏教B	2	2	－隔年開講
		仏教表現研究A	2	2	－隔年開講
		仏教表現研究B	2	2	－隔年開講
		仏教と儀礼	2	2	
	仏 教 文 化 遺 産 系	仏教文化概論	1	2	－隔年開講 －隔年開講 －隔年開講
		仏教美術入門A	1	2	
		仏教美術入門B	1	2	
		仏教美術研究A	2	2	
		仏教美術研究B	2	2	
		仏教美術研究C	2	2	
		仏画研究A	3	2	
		仏画研究B	3	2	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
専門部門	仏教文化遺産系	仏像研究 A	3 2	－隔年開講
		仏像研究 B	3 2	－隔年開講
		写経研究 A	2 2	－隔年開講
		写経研究 B	2 2	－隔年開講
		仏教文献の基礎学	2 2	
		仏教史料の基礎学	2 2	
		仏教文化ワークショップ A	2 2	
		仏教文化ワークショップ B	3 2	仏教文化遺産専攻必修
		仏教文化PBL	3 2	
		博物館概論	1 2	
		仏教と歴史	2 2	歴史学科開講
		美術工芸史概説	2 2	履修は仏教文化遺産専攻の学生に限定
		考古学概説	2 2	
		民俗学概論	2 2	
		歴史地理学	2 2	
	統合系	プロジェクト実習 A	3 2	
		プロジェクト実習 B	3 2	
		仏教文化フィールドワーク A	1 2	4年に1回開講
		仏教文化フィールドワーク B	1 2	履修は仏教文化遺産専攻の学生に限定
		仏教文化フィールドワーク C	1 2	
		仏教文化フィールドワーク D	1 2	
		仏教研修 A	1 2	
		仏教研修 B	1 2	4年に1回開講
		仏教研修 C	1 2	
		仏教研修 D	1 2	
		古都地域研修 A	1 2	
		古都地域研修 B	1 2	4年に1回開講
		古都地域研修 C	1 2	
		古都地域研修 D	1 2	
		仏教文化演習 A	1 2	
		仏教文化演習 B	2 2	
	現代社会系	教育と宗教	2 2	－隔年開講
		仏教の人権論	2 2	
		仏教社会福祉論	2 1	－社会福祉学科開講
		宗教法人法	2 2	
		現代社会と仏教 A	2 2	
		現代社会と仏教 B	2 2	
		現代社会と仏教 C	2 2	
		現代社会と仏教 D	2 2	
		現代仏教文化研究	3 2	
	各宗系	選択集Ⅰ	3 2	
		選択集Ⅱ	3 2	
		時宗教理体系 A	2 2	
		時宗教理体系 B	2 2	
		時宗教団史研究 A	2 2	
		時宗教団史研究 B	2 2	
		日蓮教学概論	2 2	－隔年開講
		禅学概論	2 2	－隔年開講
	宗学系	実践僧侶論	2 2	－宗学専攻（僧階登録者）必修
		天台学教理体系 A	2 2	
		天台学教理体系 B	2 2	
		天台学宗典概説 A	2 2	
		天台学宗典概説 B	2 2	
		天台学教理研究 A	3 2	
		天台学教理研究 B	3 2	
		天台学教理研究 C	3 2	
		天台学教理研究 D	3 2	
		天台教団史研究 A	2 2	
		天台教団史研究 B	2 2	

次ページに続く

部 門		授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
専門部門	宗学系	真言豊山学教理体系 A	2	2	
		真言豊山学教理体系 B	2	2	
		真言豊山学宗典概説 A	2	2	
		真言豊山学宗典概説 B	2	2	
		真言豊山学教理研究 A		3	2
		真言豊山学教理研究 B		3	2
		真言豊山学教理研究 C		3	2
		真言豊山学教理研究 D		3	2
		真言豊山教団史研究 A	2		2
		真言豊山教団史研究 B	2		2
		真言智山学教理体系 A	2		2
		真言智山学教理体系 B	2		2
		真言智山学宗典概説 A	2		2
		真言智山学宗典概説 B	2		2
		真言智山学教理研究 A		3	2
		真言智山学教理研究 B		3	2
		真言智山学教理研究 C		3	2
		真言智山学教理研究 D		3	2
		真言智山教団史研究 A	2		2
		真言智山教団史研究 B	2		2
		浄土学教理体系 A	2		2
		浄土学教理体系 B	2		2
		浄土学宗典概説 A	2		2
		浄土学宗典概説 B	2		2
		浄土学教理研究 A		3	2
		浄土学教理研究 B		3	2
		浄土学教理研究 C		3	2
		浄土学教理研究 D		3	2
		浄土教団史研究 A	2		2
		浄土教団史研究 B	2		2
法儀部門		天台宗法儀研究Ⅰ	1		2
		天台宗法儀研究Ⅱ	1		2
		天台宗法儀研究Ⅲ	2		2
		天台宗法儀研究Ⅳ	2		2
		天台宗伝道学Ⅰ		3	2
		天台宗伝道学Ⅱ		3	2
		天台宗悉曇Ⅰ		3	2
		天台宗悉曇Ⅱ		3	2
		真言宗豊山法儀研究Ⅰ	1		2
		真言宗豊山法儀研究Ⅱ	1		2
		真言宗豊山法儀研究Ⅲ	2		2
		真言宗豊山法儀研究Ⅳ	2		2
		真言宗豊山実践法儀		4	1
		真言宗豊山伝道学Ⅰ		3	2
		真言宗豊山伝道学Ⅱ		3	2
		真言宗豊山悉曇Ⅰ		3	2
		真言宗豊山悉曇Ⅱ		3	2
		真言宗智山法儀研究Ⅰ	1		2
		真言宗智山法儀研究Ⅱ	1		2
		真言宗智山法儀研究Ⅲ	2		2
		真言宗智山法儀研究Ⅳ	2		2
		真言宗智山法儀演習		3	4
		真言宗智山伝道学Ⅰ		3	2
		真言宗智山伝道学Ⅱ		3	2
		真言宗智山悉曇Ⅰ		3	2
		真言宗智山悉曇Ⅱ		3	2
		浄土宗法儀研究Ⅰ	1		2
		浄土宗法儀研究Ⅱ	1		2
		浄土宗法儀研究Ⅲ	2		2
		浄土宗法儀研究Ⅳ	2		2
		浄土宗法儀特論		4	2

宗学を主専攻とする者の
選択科目
僧階資格登録が必要

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
法 儀 部 門	浄土宗伝道学Ⅰ	3	2	宗学を主専攻とする者の 選択科目 僧階資格登録が必要
	浄土宗伝道学Ⅱ	3	2	
	浄土宗詠唱Ⅰ	2	2	
	浄土宗詠唱Ⅱ	2	2	
	時宗法儀研究Ⅰ	1	1	
	時宗法儀研究Ⅱ	1	1	
	時宗法儀研究Ⅲ	2	1	
	時宗法儀研究Ⅳ	2	1	
応 用 部 門	仏教学専門ゼミナールⅠ	3	2	8単位以上選択必修
	仏教学専門ゼミナールⅡ	3	2	
	仏教学専門ゼミナールⅢ	4	2	
	仏教学専門ゼミナールⅣ	4	2	
	天台学専門ゼミナールⅠ	3	2	
	天台学専門ゼミナールⅡ	3	2	
	天台学専門ゼミナールⅢ	4	2	
	天台学専門ゼミナールⅣ	4	2	
	真言豊山学専門ゼミナールⅠ	3	2	
	真言豊山学専門ゼミナールⅡ	3	2	
	真言豊山学専門ゼミナールⅢ	4	2	
	真言豊山学専門ゼミナールⅣ	4	2	
	真言智山学専門ゼミナールⅠ	3	2	
	真言智山学専門ゼミナールⅡ	3	2	
	真言智山学専門ゼミナールⅢ	4	2	
	真言智山学専門ゼミナールⅣ	4	2	
	浄土学専門ゼミナールⅠ	3	2	
	浄土学専門ゼミナールⅡ	3	2	
	浄土学専門ゼミナールⅢ	4	2	
	浄土学専門ゼミナールⅣ	4	2	
	仏教文化遺産専門ゼミナールⅠ	3	2	
	仏教文化遺産専門ゼミナールⅡ	3	2	
	仏教文化遺産専門ゼミナールⅢ	4	2	
	仏教文化遺産専門ゼミナールⅣ	4	2	
教 職 関 連 部 門	日本史概説	2	2	
	西洋史概説	2	2	
	東洋史概説	2	2	
	人文地理学B	2	2	
	自然地理学B	2	2	
	地誌学	2	2	
	法律学概論（国際法を含む。）	2	2	
	政治学概論（国際政治を含む。）	2	2	
	社会学入門	2	4	
	経済学概論（国際経済を含む。）	2	2	
	哲学入門	2	2	
	現代倫理学	2	2	
	宗教学入門	2	2	
	宗教史Ⅰ	2	2	
	宗教史Ⅱ	2	2	
	心理学	2	2	
卒業論文・卒業研究	卒業論文	4	8	8単位選択必修
	卒業研究	4	8	

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

- 〔1〕別表の指示に従い履修すること。
- 〔2〕卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。
- 〔3〕必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。
ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

●先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

- 天台宗法儀研究Ⅰ → 天台宗法儀研究Ⅱ → 天台宗法儀研究Ⅲ → 天台宗法儀研究Ⅳ
- 天台宗悉曇Ⅰ → 天台宗悉曇Ⅱ
- 真言宗豊山法儀研究Ⅰ → 真言宗豊山法儀研究Ⅱ → 真言宗豊山法儀研究Ⅲ → 真言宗豊山法儀研究Ⅳ
- 真言宗豊山悉曇Ⅰ → 真言宗豊山悉曇Ⅱ
- 真言宗智山法儀研究Ⅰ → 真言宗智山法儀研究Ⅱ → 真言宗智山法儀研究Ⅲ → 真言宗智山法儀研究Ⅳ
- 真言宗智山悉曇Ⅰ → 真言宗智山悉曇Ⅱ
- 浄土宗法儀研究Ⅰ → 浄土宗法儀研究Ⅱ → 浄土宗法儀研究Ⅲ → 浄土宗法儀研究Ⅳ
- 浄土宗伝道学Ⅰ → 浄土宗伝道学Ⅱ
- 浄土宗詠唱Ⅰ → 浄土宗詠唱Ⅱ

人間学部



人間科学科
社会福祉学科

1. 基礎ゼミナール

1年生を対象とした学科ごとのゼミナール。比較的少人数のクラス編成で、所属学科の学修内容のオリエンテーションをはじめ、専門課程の学修方法について学ぶ。また担当教員は、クラスの学生の学修全般、生活などの相談にも対応する。

2. 学科における専門科目

学科の専門科目は、各分野の専門領域について学ぶ科目群、多様な研究方法について学ぶ科目群、3年次以降の学修の基盤をつくる演習・実習科目群によって構成される。意欲的に、かつ広い視野を持って学んでいく姿勢が望まれる。

3. 専門演習・プロジェクト研究、卒業論文

3・4年次になると学科の学修内容の特色が明確になるとともに、実験や調査などの実践的な授業や学外における実習も行われる。また、より専門性を深めた講義科目に加え、専門演習・プロジェクト研究では卒業論文執筆も念頭に置いた自律的な学びが展開される。

人間学部 人間科学科

ディプロマポリシー

人間科学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、人間科学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ①「Life（人びとの人生・生活）」に関して社会学・心理学・身体科学の観点から領域横断的な知識を有している。→「根拠にもとづいて思考する力」
- ②人間科学に関する実験・調査・観察などの技能を身につけ、「Life」について科学的にアプローチすることができる。→「根拠にもとづいて思考する力」

思考・判断・表現

- ③「Life」について複眼的に思考し、検証を繰り返しながらその本質をとらえて判断できる。→「物事の本質を見極める力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」
- ④根拠にもとづいて論理的に思考し、口頭や文章で適切に表現することができる。→「根拠にもとづいて思考する力」「自分らしい方法で表現する力」
- ⑤知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑥「Life」に関する多様な課題に対して自ら問いを立て、調査・分析を通じてその解決に向けた提案を主体的に行う意欲を有している。→「自分事として問いを立てる力」「新たな価値を創造する力」
- ⑦今日的な課題に対して、多様性を受容する共感的な態度で向き合い、自己を理解しながら他者と協働して解決する姿勢を身につけている。→「多様性を尊重する力」「他者対話し、協働する力」



第Ⅱ類科目 人間学部 人間科学科 授業科目一覧

部 門		授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通		学融合ゼミナールⅠ	2	2	
		学融合ゼミナールⅡ	3	2	
		クロスディシプリンフィールドワーク	3	2	
学部共通部門		人間学概論	1	2	1科目2単位必修
		社会政策論	2	2	
		人間学特講	2	2	
基 礎 部 門		基礎ゼミナールⅠ	1	2	2科目4単位必修
		基礎ゼミナールⅡ	1	2	
		心理学の基礎	1	4	6単位以上選択必修
		社会学の基礎	1	4	
		身体科学の基礎	1	2	
研究法部門	基礎科目	心理学研究法A	1	2	6単位以上選択必修
		心理学研究法B	2	2	
		社会調査法A	1	2	
		社会学の理論と方法	2	2	
	基礎演習科目	心理学実験基礎演習Ⅰ	2	2	*
		心理学実験基礎演習Ⅱ	2	2	
		社会調査演習Ⅰ	2	2	
		社会調査演習Ⅱ	2	2	
		身体科学実験基礎演習	2	2	
	展開科目	心理学研究法C	2	2	
		社会調査法B	1	2	
		社会調査法C	2	2	
		社会統計学	2	2	
		多変量解析入門	3	4	
		質的社会調査法	3	4	
専 門 部 門	人間発達科目 (A群)	脳と心	2	3	A群とB群から各10単位以上、 かつA群とB群から 合計32単位以上選択必修
		基礎心理学	2	3	
		心の認知科学	2	3	
		生涯発達心理学	2	3	
		生命科学	2	3	
		身体活動の科学	2	3	
		生と死の社会学	2	3	
		ライフコースの社会学	2	3	
		動物と人間の心理学	2	3	
		発育発達と運動	3	4	
		認知社会心理学	3	4	
		感情心理学	3	4	
		親と子の発達心理学	3	4	
		健康心理学	3	4	
	現代社会生活科目 (B群)	人間発達特講A	2	3	A群とB群から各10単位以上、 かつA群とB群から 合計32単位以上選択必修
		人間発達特講B	2	3	
		コミュニケーションの心理学	1	2	
		ジェンダーの社会学	2	3	
		社会心理学	2	3	
		現代社会論	2	3	
		親密圏と家族の社会学	2	3	
		生活環境の社会学	2	3	
		都市と地域の社会学	2	3	
		職場の社会学	2	3	
		情報と社会	2	3	
		出版文化論	2	3	
		文化の社会学	2	3	
		仕事の社会学	3	4	

次ページに続く

部 門		授業科目の名称	履修年次			単位	備 考
専 門 部 門	現代社会 生活科目 (B群)	社会問題の社会学		3	4	2	2科目8単位必修
		現代社会生活特講 A	2	3	4	2	
		現代社会生活特講 B	2	3	4	2	
	演習科目	人間科学専門演習Ⅰ		3		4	
		人間科学専門演習Ⅱ		3		4	
卒 業 論 文		卒業論文			4	8	8単位必修

*印（研究法部門・基礎演習科目）は、各学問領域についてより深く学び、専門演習及び卒業論文において必要となる基礎的な知識や技術を身につけるための科目群である。複数の領域を積極的に履修し、3年次からのゼミ選択の手がかりとしてほしい。配置されたゼミによっては関連科目の履修を求められることもある。

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

〔1〕別表の指示に従い履修すること。

〔2〕卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

〔3〕必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

●先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

- ・心理学研究法 A → 心理学実験基礎演習 I
- ・心理学実験基礎演習 I → 心理学実験基礎演習 II
- ・心理学実験基礎演習 I → 心理学研究法 C
- ・社会調査法 A → 社会調査法 B
- ・社会調査法 C → 質的社会調査法
- ・社会調査演習 I の履修希望者は、社会調査法 A および社会調査法 B の 2 科目 4 単位を修得済みとする。
- ・社会調査演習 I → 社会調査演習 II （同じ教員クラスの継続とする。）
- ・人間科学専門演習 I → 人間科学専門演習 II （同じ教員クラスの継続とする。）
- ・多変量解析入門を履修する者は以下のいずれかの条件を満たしていること。
 - 1) 社会調査法 C と社会統計学の両方を修得済みである。
 - 2) 心理学研究法 A と心理学研究法 B の両方を修得済みである。

人間学部 社会福祉学科

ディプロマポリシー

社会福祉学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していかうとする学生を育成するために、社会福祉学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 福祉マインドを持つ人材としての思想や指針となる理論、支援に役立つ知識・技術を理解するために必要な読解力、記述力及び学びの方法を身につけている。→「根拠にもとづいて思考する力」「自分らしい方法で表現する力」
- ② 地域共生社会の実現に向け、社会福祉学の価値・知識・技術を人と社会に対する支援に活用する方法を身につけている。→「他者に共感する力」「物事の本質を見極める力」「他者対話し、協働する力」

思考・判断・表現

- ③ 学んだことを生かして、自らの生き方及び果たすべき役割や責任について考察を深めることができる。→「自分自身を理解する力」
- ④ 社会福祉学領域の研究や方法を通じて、地域社会や身近な人々の間で生じている問題を発見し、その解決方法を判断し、改善を図ることができる。→「物事の本質を見極める力」
- ⑤ 学んだ知識について、自らの考えを他者に対して的確に表現することができる。→「自分らしい方法で表現する力」
- ⑥ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑦ 社会福祉学の学びから学習や研究課題を設定し、主体的に取り組む姿勢を有している。→「自分事として問いを立てる力」
- ⑧ 他者と共感をもって協働し、共生社会構築の役割を担う意欲を持っている。→「他者に共感する力」
- ⑨ 多様な人々の価値観を受け止め、円滑な人間関係を築き、チームアプローチにより目標達成に向けて努力することができる。→「多様性を尊重する力」「新たな価値を創造する力」
- ⑩ グループの特性に応じて、適切なリーダーシップやメンバーシップを発揮する姿勢を有している。→「他者対話し、協働する力」
- ⑪ 自分自身の言動を振り返り、意識的な変容の意図のもと、自身の成長につなげることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」
- ⑫ 社会福祉学の価値・知識・技術を理解し活用できるよう、日々成果を蓄積しようとする意欲を持っている。→「新たな価値を創造する力」



第Ⅱ類科目 人間学部 社会福祉学科 授業科目一覧

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
	クロスディシプリンフィールドワーク	3	2	
学部共通部門	人間学概論	1	2	1科目2単位必修
	社会政策論	2	2	
	人間学特論	2	2	
基 礎 部 門	基礎ゼミナールⅠ	1	1	9科目11単位必修
	基礎ゼミナールⅡ	1	1	
	基礎ゼミナールⅢ	1	1	
	基礎ゼミナールⅣ	1	1	
	社会福祉入門Ⅰ	1	1	
	社会福祉入門Ⅱ	1	1	
	社会福祉原論Ⅰ	1	2	
	仏教社会福祉論	1	1	
	ソーシャルワーク論Ⅰ	1	2	
専 門 部 門	社会保障論Ⅰ	1	2	必修を含めて、第Ⅱ類科目を 合計70単位以上修得すること
	地域福祉論Ⅰ	1	2	
	心理学	1	2	
	社会福祉基礎実践	2	2	
	ウェルビーイングゼミナールⅠ	2	2	
	ウェルビーイングゼミナールⅡ	2	2	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	1	2	
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	2	
	ソーシャルワーク論Ⅳ		3	
	ソーシャルワーク論Ⅴ		3	
	ソーシャルワーク論Ⅵ		4	
	社会福祉原論Ⅱ	2	2	
	社会保障論Ⅱ	2	2	
	地域福祉論Ⅱ	2	2	
	社会学	2	2	
	医学概論	2	2	
	医療福祉論		3	
	公的扶助論	2	2	
	児童福祉論	2	2	
	高齢者福祉論	2	2	
	障害者福祉論	2	2	
	司法福祉論		3	
	権利擁護を支える法制度		3	
	福祉経営論		3	
	社会福祉調査論		3	
	社会福祉の歴史		3	
	医療ソーシャルワーク論		3	
	エンド・オブ・ライフケア論	2	2	
	コミュニティソーシャルワーク論		3	
	ウェルビーイング論	2	2	
	スクールソーシャルワーク論		3	
	精神保健学	2	4	
	精神保健福祉の原理Ⅰ		3	
	精神保健福祉の原理Ⅱ		4	
	精神疾患とその治療		3	
	精神保健福祉制度論		3	
	精神障害リハビリテーション論		3	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
専 門 部 門	ソーシャルワークの理論と方法 (専門)Ⅰ		4	2
	ソーシャルワークの理論と方法 (専門)Ⅱ		4	2
	社会福祉特講Ⅰ	2		1
	社会福祉特講Ⅱ		3	2
	社会福祉特講Ⅲ-a		4	1
	社会福祉特講Ⅲ-b		4	1
	社会福祉特講Ⅲ-c		4	1
実 習 ・ 演 習 部 門	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2		2
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		3	2
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	1		2
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2		2
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2		2
	ソーシャルワーク演習Ⅳ		3	2
	ソーシャルワーク演習Ⅴ		4	2
	ソーシャルワーク演習Ⅵ		4	2
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2		2
	ソーシャルワーク実習Ⅱ		3	4
	ソーシャルワーク実習Ⅲ		4	2
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ		3	2
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ		3	2
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ		4	2
	精神保健福祉援助実習Ⅰ		4	2
	精神保健福祉援助実習Ⅱ		4	3
	精神保健福祉援助演習Ⅰ		3	2
	精神保健福祉援助演習Ⅱ		3	2
	精神保健福祉援助演習Ⅲ		4	2
応 用 部 門	プロジェクト研究Ⅰ		3	4
	プロジェクト研究Ⅱ		3	4
	プロジェクト研究Ⅲ		3	4
	プロジェクト研究Ⅳ		3	4
	インターンシップ	2	3	4
卒業研究・卒業論文	卒業研究		4	8
	卒業論文		4	8

Ⅰ～Ⅱは先修制
Ⅲ～Ⅳは先修制
Ⅴ～Ⅵは先修制

8単位選択必修

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

〔1〕別表の指示に従い履修すること。

〔2〕卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

〔3〕必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

●精神保健福祉士指定科目の履修は別に定める条件を満たしていること。

第Ⅱ類科目 人間学部 社会福祉学科 社会福祉士・精神保健福祉士 指定科目

部 門	法定科目	本学開講科目	単位	備 考
社会福祉士 指定科目	医学概論	医学概論	2	必修
	心理学と心理的支援	心理学	2	
	社会学と社会システム	社会学	2	
	社会福祉の原理と政策	社会福祉原論Ⅰ	2	
		社会福祉原論Ⅱ	2	
	社会福祉調査の基礎	社会福祉調査論	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	ソーシャルワーク論Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	
		ソーシャルワーク論Ⅳ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法 (専門)	ソーシャルワーク論Ⅴ	2	
		ソーシャルワーク論Ⅵ	2	
	地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論Ⅰ	2	
		地域福祉論Ⅱ	2	
	福祉サービスの組織と経営	福祉経営論	2	
	社会保障	社会保障論Ⅰ	2	
		社会保障論Ⅱ	2	
	高齢者福祉	高齢者福祉論	2	
	障害者福祉	障害者福祉論	2	
	児童・家庭福祉	児童福祉論	2	
	貧困に対する支援	公的扶助論	2	
	保健医療と福祉	医療福祉論	2	
	権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	2	
	刑事司法と福祉	司法福祉論	2	
	ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク演習 (専門)	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅵ	2	
	ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	60時間実習
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4	
	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	3年次履修 180時間実習 計240時間実習

部 門	法定科目	本学開講科目	単位	備 考
精神保健福祉士指定科目	医学概論	医学概論	2	必修
	心理学と心理的支援	心理学	2	
	社会学と社会システム	社会学	2	
	社会福祉の原理と政策	社会福祉原論Ⅰ	2	
		社会福祉原論Ⅱ	2	
	社会福祉調査の基礎	社会福祉調査論	2	
	地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論Ⅰ	2	
		地域福祉論Ⅱ	2	
	社会保障	社会保障論Ⅰ	2	
		社会保障論Ⅱ	2	
	権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	2	
	刑事司法と福祉	司法福祉論	2	
	障害者福祉	障害者福祉論	2	
	精神医学と精神医療	精神疾患とその治療	4	
	現代の精神保健の課題と支援	精神保健学	4	
	ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	
	精神保健福祉の原理	精神保健福祉の原理Ⅰ	2	
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	
		ソーシャルワーク論Ⅳ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	2	
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	2	
	精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーション論	2	
	精神保健福祉制度論	精神保健福祉制度論	2	
	ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク演習(専門)	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	2	
		精神保健福祉援助演習Ⅲ	2	
	ソーシャルワーク実習指導	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2	90時間実習
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2	
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	2	
	ソーシャルワーク実習	精神保健福祉援助実習Ⅰ	2	4年次履修 120時間実習 計210時間実習
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	3	

履修についての注意事項

詳細な内容はガイダンスで説明する。

臨床心理学部



臨床心理学科

1. 基礎ゼミナール

1年生を対象としたゼミナール。少人数のクラス編成で、大学での学修全般に関するオリエンテーションをはじめ、臨床心理学の基礎的な知識及び上級学年で学ぶ専門科目の内容や学修方法について指導する。

また担当教員と学生生活や学修について話し合う場でもあり、有意義な4年間を送るための第一歩として受講する必修科目である。

2. 専門ゼミナール、卒業論文・卒業研究

卒業論文・卒業研究は大学での学修の集大成である。3年次より専門ゼミナールでテーマの決定や資料収集など、担当教員より指導を受けながら卒業論文・卒業研究を完成させていく。

また、よりよい成果があげられるよう、1年生のうちから十分な基礎学修を積み上げることが大切である。

臨床心理学部 臨床心理学科

ディプロマポリシー

臨床心理学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していかうとする学生を育成するために、臨床心理学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

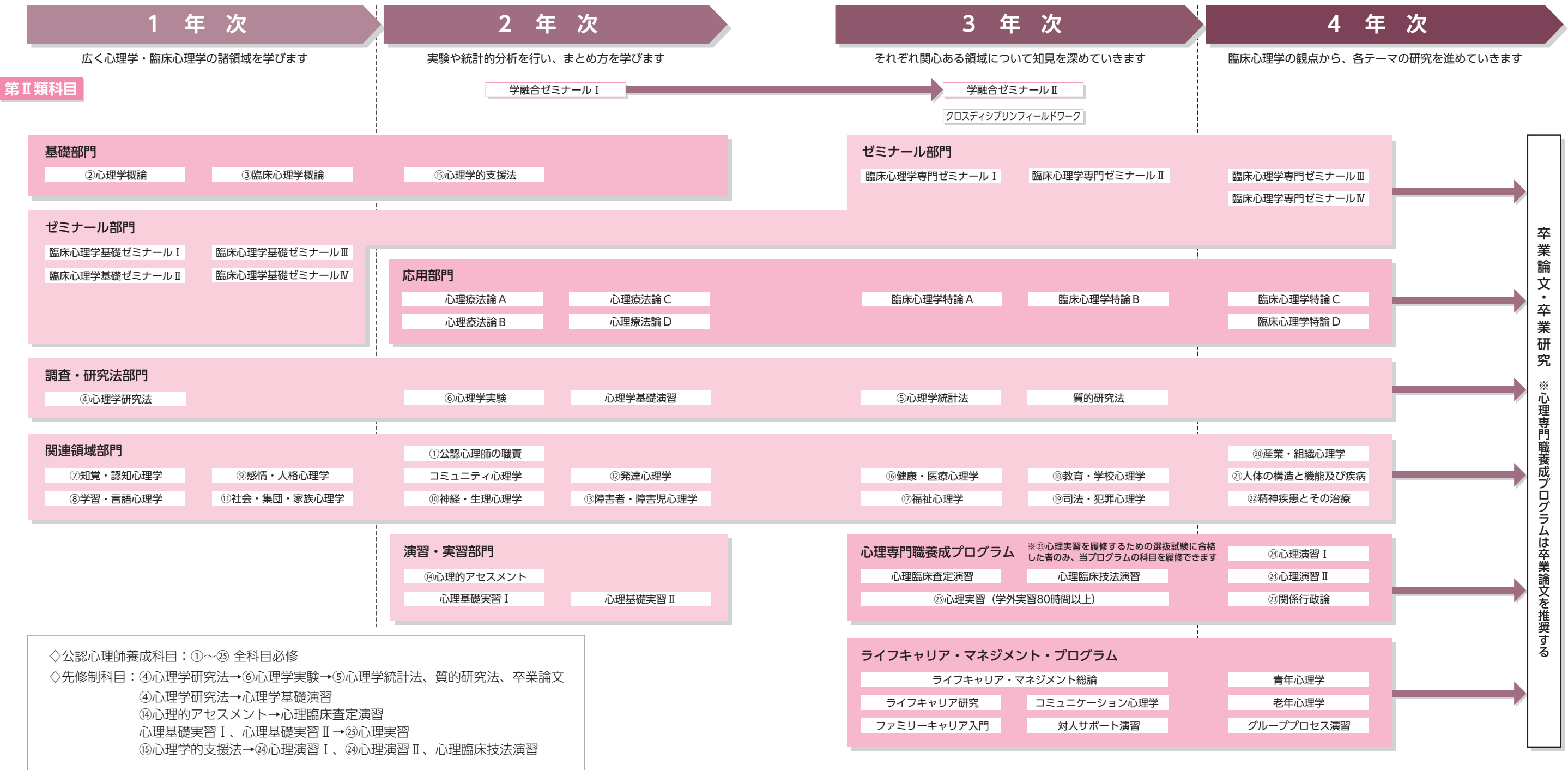
- ① 臨床心理学の諸理論を広く学び、その基本と本質を理解している。→「物事の本質を見極める力」
- ② 臨床心理学の技法や基本的な研究方法を身に付け、これを実社会の課題分析や解決に生かすことができる。→「自分事として問いを立てる力」「根拠にもとづいて思考する力」

思考・判断・表現

- ③ 客観的根拠を大切に科学的視点と共感をもって他者の体験や思いを理解する臨床的視点に基づき、自己理解を深めたり、課題解決への道筋を探究したりすることができる。→「他者に共感する力」「自分自身を理解する力」
- ④ 偏らない視野をもち、多様な意見を踏まえながら、自らの問題意識とその答えの探究方法を、論理的に順序立てて導き出すことができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」
- ⑤ 専門知識を理論的基盤とし、自らの意見やその論拠および考察を自分の言葉で表現することができる。→「自分らしい方法で表現する力」
- ⑥ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑦ 互いの個性や多様な生き方を尊重する開かれた態度をもち、自身を省察しながら、新たな価値と可能性を拓く姿勢を有している。→「多様性を尊重する力」「新たな価値を創造する力」
- ⑧ 臨床心理学の知識と技術をいかし、社会を構成する一員として責任ある対話と協働を継続することができる。→「他者に対話し、協働する力」



第Ⅱ類科目 臨床心理学部 臨床心理学科 授業科目一覧

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
	クロスディシプリンフィールドワーク	3	2	
基 礎 部 門	心理学概論	1	2	2科目4単位必修
	臨床心理学概論	1	2	
	心理学的支援法	2 3 4	2	－選択科目
調査・研究法部門	心理学研究法	1	2	－1科目2単位必修
	心理学実験	2 3 4	4	
	心理学基礎演習	2 3 4	4	選択科目
	心理学統計法	3 4	2	
	質的研究法	3 4	2	
ゼミナール部門	臨床心理学基礎ゼミナールⅠ	1	1	4科目4単位必修
	臨床心理学基礎ゼミナールⅡ	1	1	
	臨床心理学基礎ゼミナールⅢ	1	1	
	臨床心理学基礎ゼミナールⅣ	1	1	
	臨床心理学専門ゼミナールⅠ	3	2	4科目8単位必修
	臨床心理学専門ゼミナールⅡ	3	2	
	臨床心理学専門ゼミナールⅢ	4	2	
	臨床心理学専門ゼミナールⅣ	4	2	
演習・実習部門	心理的アセスメント	2 3 4	2	－選択科目
	心理基礎実習Ⅰ	2	1	2科目2単位必修
	心理基礎実習Ⅱ	2	1	
関連領域部門	公認心理師の職責	2 3 4	2	選択科目
	知覚・認知心理学	1 2 3 4	2	
	学習・言語心理学	1 2 3 4	2	
	感情・人格心理学	1 2 3 4	2	
	社会・集団・家族心理学	1 2 3 4	2	
	神経・生理心理学	2 3 4	2	
	発達心理学	2 3 4	2	
	障害者・障害児心理学	2 3 4	2	
	健康・医療心理学	2 3 4	2	
	福祉心理学	2 3 4	2	
	教育・学校心理学	2 3 4	2	
	司法・犯罪心理学	2 3 4	2	
	産業・組織心理学	2 3 4	2	
	人体の構造と機能及び疾病	2 3 4	2	
	精神疾患とその治療	2 3 4	4	
応 用 部 門	心理療法論A	2 3 4	2	選択科目
	心理療法論B	2 3 4	2	
	心理療法論C	2 3 4	2	
	心理療法論D	2 3 4	2	
	臨床心理学特論A	3 4	2	
	臨床心理学特論B	3 4	2	
	臨床心理学特論C	3 4	2	
	臨床心理学特論D	3 4	2	
心 理 専 門 職 養成プログラム	関係行政論	3 4	2	選択科目
	心理演習Ⅰ	3 4	2	
	心理演習Ⅱ	3 4	2	
	心理臨床査定演習	3 4	2	
	心理臨床技法演習	3 4	2	
	心理実習	3 4	4	選択科目(学外実習・見学80時間以上)

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
ライフキャリア・マネジメント・プログラム	ライフキャリア・マネジメント総論	3 4	2	選択科目
	ライフキャリア研究	3 4	2	
	ファミリーキャリア入門	3 4	2	
	青年心理学	3 4	2	
	老年心理学	3 4	2	
	コミュニケーション心理学	3 4	2	
	対人サポート演習	3 4	2	
	グループプロセス演習	3 4	2	
卒業論文	卒業論文	4	8	1科目8単位選択必修
	卒業研究	4	8	

- 履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

- 〔1〕別表の指示に従い履修すること。
 〔2〕卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。
 〔3〕必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。
 ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

- 先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

- ・心理学研究法→心理学実験、心理学基礎演習
- ・心理学実験→心理学統計法、質的研究法、卒業論文
- ・心理的アセスメント→心理臨床査定演習
- ・心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ→心理実習
- ・心理学的支援法→心理演習Ⅰ、心理演習Ⅱ、心理臨床技法演習

公認心理師養成科目一覧

授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
①公認心理師の職責	2 3 4	2	
②心理学概論	1	2	
③臨床心理学概論	1	2	
④心理学研究法	1	2	
⑤心理学統計法	3 4	2	
⑥心理学実験	2 3 4	4	
⑦知覚・認知心理学	1 2 3 4	2	
⑧学習・言語心理学	1 2 3 4	2	
⑨感情・人格心理学	1 2 3 4	2	
⑩神経・生理心理学	2 3 4	2	
⑪社会・集団・家族心理学	1 2 3 4	2	
⑫発達心理学	2 3 4	2	
⑬障害者・障害児心理学	2 3 4	2	
⑭心理的アセスメント	2 3 4	2	
⑮心理学的支援法	2 3 4	2	
⑯健康・医療心理学	2 3 4	2	
⑰福祉心理学	2 3 4	2	
⑱教育・学校心理学	2 3 4	2	
⑲司法・犯罪心理学	2 3 4	2	
⑳産業・組織心理学	2 3 4	2	
㉑人体の構造と機能及び疾病	2 3 4	2	
㉒精神疾患とその治療	2 3 4	4	
㉓関係行政論	3 4	2	
㉔心理演習Ⅰ	3 4	2	
㉔心理演習Ⅱ	3 4	2	
㉕心理実習	3 4	4	

- 公認心理師養成科目について。

- ・別表の①～㉕全科目の単位を修得すること。
- ・心理実習については、学外実習への参加が求められるため、学科が定めた成績評価基準をクリアした学生に対して、選抜試験及び事前面談を行い、合格者に履修を認める。
- ・心理演習Ⅰ・Ⅱすべて履修することで、公認心理師養成科目「心理演習」の単位とみなす。

文学部



人文学科
日本文学科
歴史学科

1. 基礎ゼミナール

1年生と2年生を対象とする入門及び基礎のゼミナール形式の科目。すべての学びのスタートとなる大切な科目である。少人数編成で、所属コースの学習の基礎を培い、仲間と出会い、ともに学び、議論し、切磋琢磨する。専門領域につながる新たな知識を共有し、考え、成果を発表する場となる。

2. 学科の基礎部門・分野別部門・応用部門

学科ごとに構成される基礎部門及び分野別部門、応用部門の科目。1年生と2年生は所属コースの学びに必要な学問の基本的なスキルを修得し、3年生からはさらに高度な応用力を身につける。学科教員の指導のもとに、多彩な科目のなかから、効果的な科目選択をし、卒業論文・卒業研究に取り組むための力を養う。

3. 課題研究・専門演習、卒業論文

専門的な研究では、学科ごとの特色が反映され、授業の形態や方法もさまざまである。

卒業論文は大学における学びの集大成である。これまで積み重ねてきた努力や学習によって得たすべての力を結集させ、仲間と励ましあい、各自の研究テーマを完成させる。

文学部 人文学科 哲学・宗教文化コース

ディプロマポリシー

人文学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、人文学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。

知識・技能

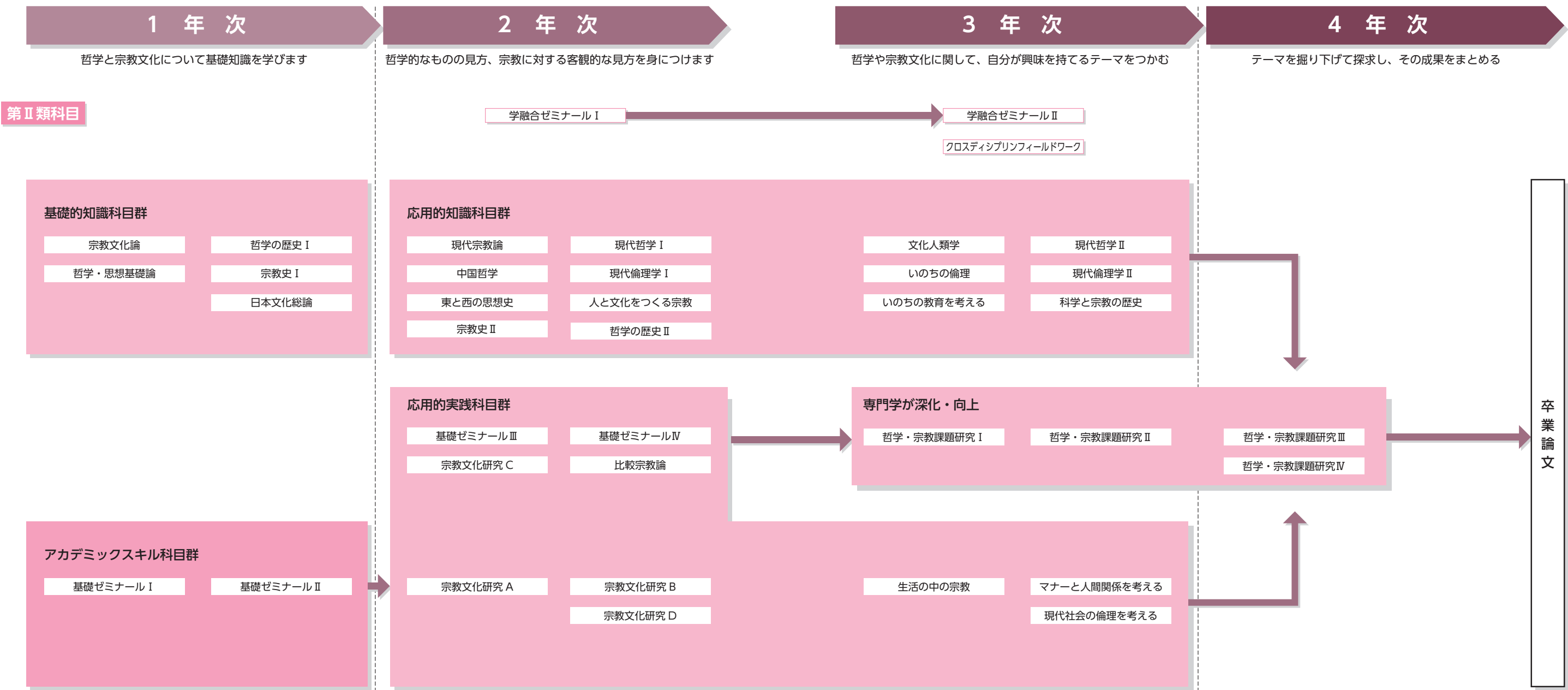
- ① 哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野に関する深い教養を体系的に身につけている。→「物事の本質を見極める力」
- ② 哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野における研究を通じて、学問の基本的な方法を身につけている。→「根拠にもとづいて思考する力」

思考・判断・表現

- ③ 哲学、思想、宗教、文化、言語の学問的領域の分析方法を応用し、多面的かつ国際的に、学際的な視点でものごとをとらえることができる。→「物事の本質を見極める力」
- ④ 多様な価値観を尊重し、異なる立場や意見に対しても公平に理解を示し、建設的な議論と判断ができる。→「多様性を尊重する力」
- ⑤ 学問知や実践知を自分らしい方法で表現し、文章や口頭で他者に伝えることができる。→「自分らしい方法で表現する力」
- ⑥ 知識集約型社会を見据え、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑦ 哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野における学問的経験を活かし、未来において起こる新たな思潮を理解し、自分事として問いを立て、つねに自らの学問知を刷新しようとする意欲を有している。→「自分事として問いを立てる力」
- ⑧ 自らの能力を社会に還元する意思と、社会のなかで自らを高める意欲を持ち、自らの生き方について責任を果たす姿勢を身につけている。→「他者に共感する力」「他者対話し、協働する力」
- ⑨ コミュニティの重要性を理解し、その発展に貢献する積極性と協調性を持ちながら、他者対話し協働することができる。→「他者対話し、協働する力」



文学部 人文学科 国際文化コース

ディプロマポリシー

人文学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、人文学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。

知識・技能

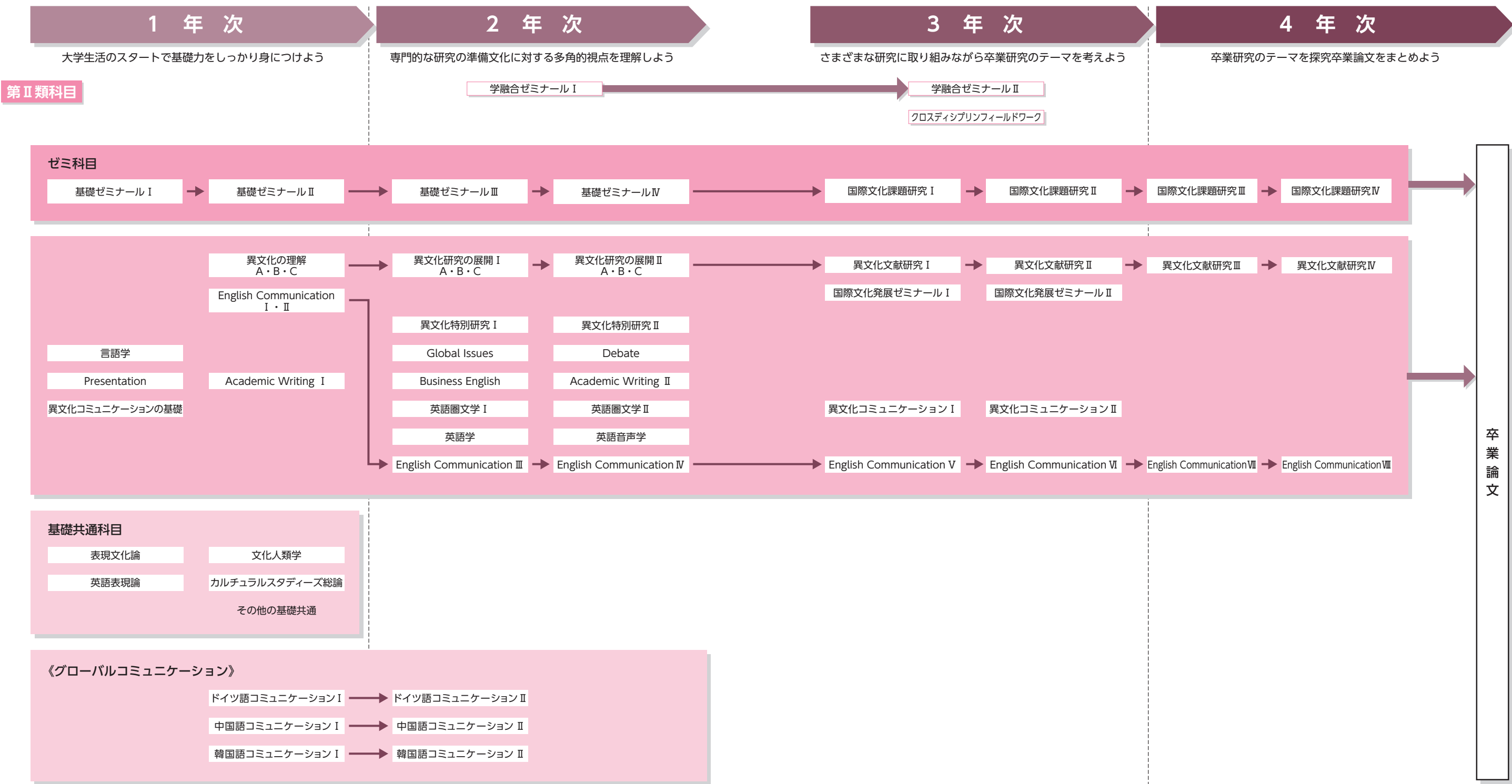
- ① 哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野に関する深い教養を体系的に身につけている。→「物事の本質を見極める力」
- ② 哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野における研究を通じて、学問の基本的な方法を身につけている。→「根拠にもとづいて思考する力」

思考・判断・表現

- ③ 哲学、思想、宗教、文化、言語の学問的領域の分析方法を応用し、多面的かつ国際的に、学際的な視点でものごとをとらえることができる。→「物事の本質を見極める力」
- ④ 多様な価値観を尊重し、異なる立場や意見に対しても公平に理解を示し、建設的な議論と判断ができる。→「多様性を尊重する力」
- ⑤ 学問知や実践知を自分らしい方法で表現し、文章や口頭で他者に伝えることができる。→「自分らしい方法で表現する力」
- ⑥ 知識集約型社会を見据え、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑦ 哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野における学問的経験を活かし、未来において起こる新たな思潮を理解し、自分事として問いを立て、つねに自らの学問知を刷新しようとする意欲を有している。→「自分事として問いを立てる力」
- ⑧ 自らの能力を社会に還元する意思と、社会のなかで自らを高める意欲を持ち、自らの生き方について責任を果たす姿勢を身につけている。→「他者に共感する力」「他者対話し、協働する力」
- ⑨ コミュニティの重要性を理解し、その発展に貢献する積極性と協調性を持ちながら、他者と対話し協働することができる。→「他者対話し、協働する力」



第Ⅱ類科目 文学部 人文学科 授業科目一覧

部 門		授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通		学融合ゼミナールⅠ	2	2	
		学融合ゼミナールⅡ	3	2	
		クロスディシプリンフィールドワーク	3	2	
基 礎 部 門	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	1	2	4科目8単位必修
		基礎ゼミナールⅡ	1	2	
		基礎ゼミナールⅢ	2	2	
		基礎ゼミナールⅣ	2	2	
	基礎概論	日本文化総論	1	2	3科目6単位以上選択必修
		日本文学総論	1	2	
		日本語学総論	1	2	
		哲学・思想基礎論	1	2	
		宗教文化論	1	2	
		カルチュラルスタディーズ総論	1	2	
		文化人類学	1	2	
		表現文化論	1	2	
		英語表現論	1	2	
哲学・宗教文化 分野別部門	専門基礎	哲学の歴史Ⅰ	1 2	2	
		哲学の歴史Ⅱ	1 2	2	
		中国の哲学	1 2	2	
		現代哲学Ⅰ	2 3	2	
		現代哲学Ⅱ	2 3	2	
		現代倫理学Ⅰ	1 2	2	
		現代倫理学Ⅱ	1 2	2	
		宗教史Ⅰ	1 2	2	
		宗教史Ⅱ	1 2	2	
	専門応用	いのちの倫理	1 2	2	
		東と西の思想史	1 2	2	
		生活のなかの宗教	1 2	2	
		科学と宗教の歴史	1 2	2	
		いのちの教育を考える	1 2	2	
		伝統礼法と教育	1 2	2	
		人と文化をつくる宗教	1 2	2	
		宗教と教育の関係	1 2	2	
		現代社会の倫理を考える	1 2	2	
		マナーと人間関係を考える	1 2	2	
	専門発展	現代宗教論	2 3	2	哲学・宗教文化コースは 4科目8単位必修
		比較宗教論	2 3	2	
		宗教文化研究A	2 3	2	
		宗教文化研究B	2 3	2	
		宗教文化研究C	2 3	2	
		宗教文化研究D	2 3	2	
		哲学・宗教課題研究Ⅰ	3	2	
		哲学・宗教課題研究Ⅱ	3	2	
国 際 文 化 分野別部門	専門基礎	哲学・宗教課題研究Ⅲ	4	2	
		哲学・宗教課題研究Ⅳ	4	2	
		異文化の理解A	1	2	
		異文化の理解B	1	2	
		異文化の理解C	1	2	
		異文化コミュニケーションの基礎	1	2	
		異文化研究の展開Ⅰ－A	2	2	
		異文化研究の展開Ⅰ－B	2	2	
		異文化研究の展開Ⅰ－C	2	2	
		異文化研究の展開Ⅱ－A	2	2	
		異文化研究の展開Ⅱ－B	2	2	
		異文化研究の展開Ⅱ－C	2	2	

部 門		授業科目の名称	履修年次		単位	備 考		
国 際 文 化 分 野 別 部 門	専 門 基 礎	異文化特別研究Ⅰ	2		2			
		異文化特別研究Ⅱ	2		2			
		言語学	1		2			
		英語学	2		2			
		英語音声学	2		2			
		英語圏文学Ⅰ	2		2			
		英語圏文学Ⅱ	2		2			
		異文化コミュニケーションⅠ		3	2			
		異文化コミュニケーションⅡ		3	2			
		Academic WritingⅠ	1		2			
		Academic WritingⅡ	2		2			
		Presentation	1		2			
		Debate	2		2			
	グ ロー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	English CommunicationⅠ	1		2			
		English CommunicationⅡ	1		2			
		English CommunicationⅢ	2		2			
		English CommunicationⅣ	2		2			
		English CommunicationⅤ		3	2			
		English CommunicationⅥ		3	2			
		English CommunicationⅦ		4	2			
		English CommunicationⅧ		4	2			
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	2	3		4	2
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	2	3		4	2
		中国語コミュニケーションⅠ	1	2	3		4	2
		中国語コミュニケーションⅡ	1	2	3		4	2
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	2	3		4	2
	韓国語コミュニケーションⅡ	1	2	3	4	2		
	専 門 発 展	国際文化発展ゼミナールⅠ		3	2	国際文化コースは 4科目8単位必修		
		国際文化発展ゼミナールⅡ		3	2			
		異文化文献研究Ⅰ		3	2			
		異文化文献研究Ⅱ		3	2			
		異文化文献研究Ⅲ		4	2			
		異文化文献研究Ⅳ		4	2			
Global Issues		2	3	2				
Business English		2	3	2				
国際文化課題研究Ⅰ			3	2				
国際文化課題研究Ⅱ			3	2				
国際文化課題研究Ⅲ			4	2				
国際文化課題研究Ⅳ			4	2				
教 職 関 連 部 門	法律学概論（国際法を含む。）	2	3	4	2			
	政治学概論（国際政治を含む。）	2	3	4	2			
	社会学入門	2	3	4	4			
	経済学概論（国際経済を含む。）	2	3	4	2			
	哲学入門	2	3	4	2			
	宗教学入門	2	3	4	2			
	心理学	2	3	4	2			
卒 業 論 文	卒業論文		4	8	8単位必修			

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

〔1〕別表の指示に従い履修すること。

〔2〕卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

〔3〕必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

文学部 日本文学科

ディプロマポリシー

日本文学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、日本文学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

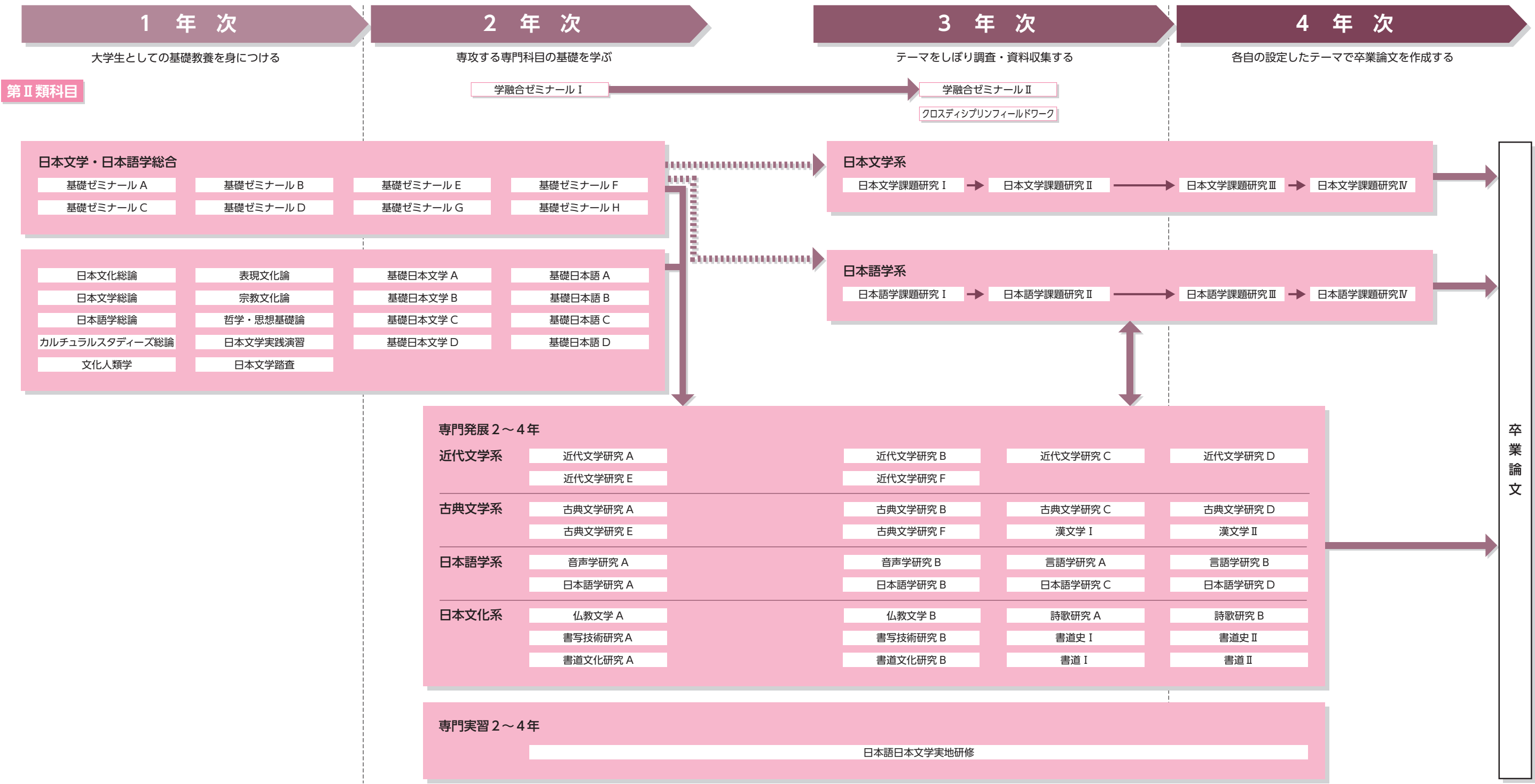
- ① 構造的知識（総論）：日本語学・日本文学の学問領域を理解し、また日本語日本文学の発生から現在までの歴史的展開を理解しその特徴を説明できる。→「物事の本質を見極める力」
- ② 構造的知識（各論）：日本語日本文学の専門分野に関する知識を有し説明できる。→「物事の本質を見極める力」
- ③ 読解力：日本の古代から現代までの書き言葉・話し言葉で表現された言説の内容について、根拠にもとづき客観的に理解し解釈できる。→「根拠にもとづいて思考する力」
- ④ 情報リテラシー：日本語日本文学の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し活用することができる。→「根拠にもとづいて思考する力」

思考・判断・表現

- ⑤ 批判的創造的思考力：日本語日本文学の事象について、自らの問題意識と照らし合わせながら問題意識を持ち、その本質を洞察することができる。→「自分事として問いを立てる力」
- ⑥ 文章作成力：自らの考えを適切な語彙を用いて論理的に文章化できる。→「自分らしい方法で表現する力」
- ⑦ 口頭伝達力：相手の話を的確に聞き取り、自分の考えや意見を相手に明確に伝えることができる。→「自分らしい方法で表現する力」
- ⑧ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑨ 共同研究への参画：共同研究やグループワークにおいて、他者と対話しながら自らの有効な役割を考え、参加しようとする意欲、姿勢を有している。→「他者と対話し、協働する力」
- ⑩ 生涯学習に対する基盤と能力：自らを省察し、生涯学び続けていくための問題意識を有している。また、地域や社会が抱える課題への持続的な関心とともに、新たな価値の創造に向けて、その課題を積極的に解決するための技能を身につけようとする意欲を持っている。→「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」「新たな価値を創造する力」
- ⑪ 異文化・他者の尊重と理解：異文化や異質な存在を謙虚に理解し、多様性を尊重する態度を有している。→「多様性を尊重する力」



第Ⅱ類科目 文学部 日本文学科 授業科目一覧

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全学共通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
	クロスディシプリンフィールドワーク	3	2	
基礎部門	基礎ゼミナールA	1	1	8科目8単位必修
	基礎ゼミナールB	1	1	
	基礎ゼミナールC	1	1	
	基礎ゼミナールD	1	1	
	基礎ゼミナールE	2	1	
	基礎ゼミナールF	2	1	
	基礎ゼミナールG	2	1	
	基礎ゼミナールH	2	1	
	日本文学実践演習	1	2	3科目6単位以上履修すること
	日本文学踏査	1	2	
	日本文化総論	1	2	
	日本文学総論	1	2	
	日本語学総論	1	2	
	哲学・思想基礎論	1	2	
	宗教文化論	1	2	
	カルチュラルスタディーズ総論	1	2	
	文化人類学	1	2	
	表現文化論	1	2	
専門部門	基礎日本文学A	1 2	2	
	基礎日本文学B	1 2	2	
	基礎日本文学C	1 2	2	
	基礎日本文学D	1 2	2	
	基礎日本語A	1 2	2	
	基礎日本語B	1 2	2	
	基礎日本語C	1 2	2	
	基礎日本語D	1 2	2	
	古典文学研究A	2 3	2	
	古典文学研究B	2 3	2	
	古典文学研究C	2 3	2	
	古典文学研究D	2 3	2	
	古典文学研究E	2 3	2	
	古典文学研究F	2 3	2	
	古典文学研究G	2 3	2	
	古典文学研究H	2 3	2	
	詩歌研究A	2 3	2	
	詩歌研究B	2 3	2	
	近代文学研究A	2 3	2	
	近代文学研究B	2 3	2	
	近代文学研究C	2 3	2	
	近代文学研究D	2 3	2	
	近代文学研究E	2 3	2	
	近代文学研究F	2 3	2	
	日本語学研究A	2 3	2	
	日本語学研究B	2 3	2	
	日本語学研究C	2 3	2	
	日本語学研究D	2 3	2	
	音声学研究A	2 3	2	
	音声学研究B	2 3	2	
	言語学研究A	2 3	2	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
専 門 部 門	言語学研究 B	2 3	2	4科目8単位選択必修
	仏教文学 A	2 3	2	
	仏教文学 B	2 3	2	
	漢文学 I	2 3	2	
	漢文学 II	2 3	2	
	書写技術研究 A	2 3	2	
	書写技術研究 B	2 3	2	
	書道 I	2 3	2	
	書道 II	2 3	2	
	書道史 I	2 3	2	
	書道史 II	2 3	2	
	書道文化研究 A	2 3	2	
	書道文化研究 B	2 3	2	
	日本文学課題研究 I		3 2	
	日本文学課題研究 II		3 2	
	日本文学課題研究 III		4 2	
	日本文学課題研究 IV		4 2	
	日本語学課題研究 I		3 2	
	日本語学課題研究 II		3 2	
	日本語学課題研究 III		4 2	
	日本語学課題研究 IV		4 2	
専門実習部門	日本語日本文学実地研修	2 3 4	2	選択科目（集中講義）
卒業論文	卒業論文		4 8	8単位必修

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

〔1〕別表の指示に従い履修すること。

〔2〕卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

〔3〕必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

文学部 歴史学科 日本史コース

ディプロマポリシー

歴史学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、歴史学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

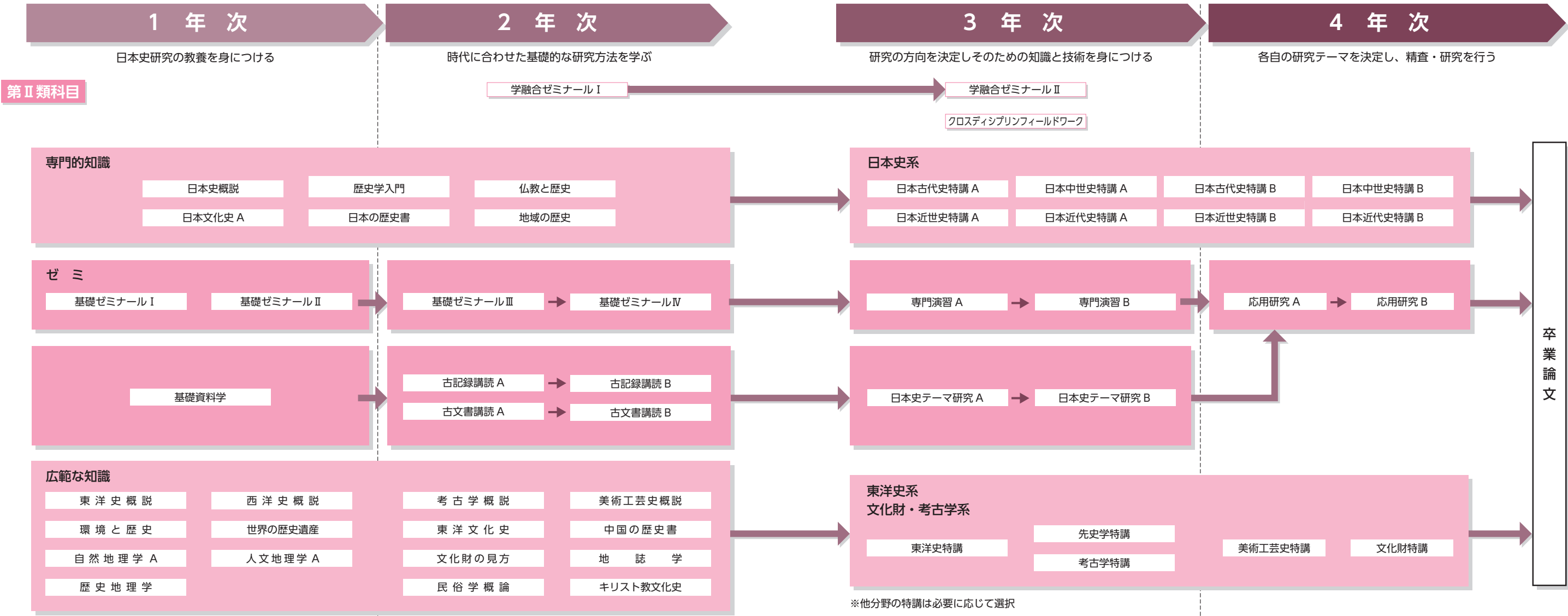
- ① 歴史についての幅広い知的好奇心をそなえ、専門的かつ広範な知識を身につけている。→「物事の本質を見極める力」
- ② 日本史学、東洋史学、文化財・考古学の実証的な研究方法を身につけている。→「根拠にもとづいて思考する力」

思考・判断・表現

- ③ 学びを進める中で物事の本質を見極め、自ら問いを立て、日本史学、東洋史学、文化財・考古学のいずれかの領域における研究方法を用いて、その問いを解決することができる。→「物事の本質を見極める力」「自分事として問いを立てる力」
- ④ 自らが学んだ知識や経験にもとづく考察を、客観的に口頭や文章で表現することができる。→「自分らしい方法で表現する力」
- ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑥ 日本史学、東洋史学、文化財・考古学の多様な学びを通じて、社会のさまざまな課題を自らの問題として捉え、主体的にそれらの解決に取り組む姿勢を身につけている。→「自分事として問いを立てる力」
- ⑦ 自らが学んだ領域を活かして、地域社会（コミュニティ）が抱える課題に対して、他者に共感してその解決に取り組むことができる。→「他者に共感する力」



文学部 歴史学科 東洋史コース

ディプロマポリシー

歴史学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、歴史学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

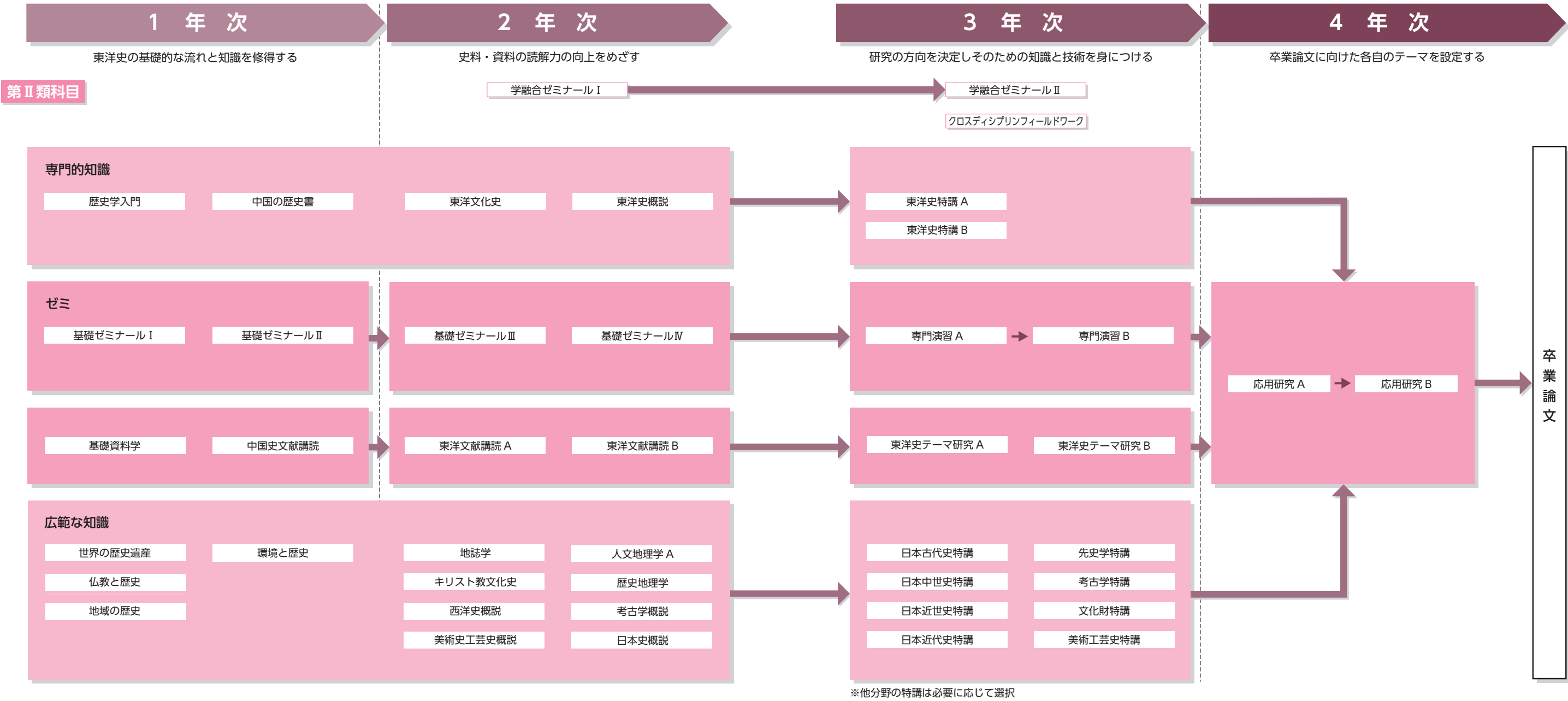
- ① 歴史についての幅広い知的好奇心をそなえ、専門的かつ広範な知識を身につけている。→「物事の本質を見極める力」
- ② 日本史学、東洋史学、文化財・考古学の実証的な研究方法を身につけている。→「根拠にもとづいて思考する力」

思考・判断・表現

- ③ 学びを進める中で物事の本質を見極め、自ら問いを立て、日本史学、東洋史学、文化財・考古学のいずれかの領域における研究方法を用いて、その問いを解決することができる。→「物事の本質を見極める力」「自分事として問いを立てる力」
- ④ 自らが学んだ知識や経験にもとづく考察を、客観的に口頭や文章で表現することができる。→「自分らしい方法で表現する力」
- ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑥ 日本史学、東洋史学、文化財・考古学の多様な学びを通じて、社会のさまざまな課題を自らの問題として捉え、主体的にそれらの解決に取り組む姿勢を身につけている。→「自分事として問いを立てる力」
- ⑦ 自らが学んだ領域を活かして、地域社会（コミュニティ）が抱える課題に対して、他者に共感してその解決に取り組むことができる。→「他者に共感する力」



文学部 歴史学科 文化財・考古学コース

ディプロマポリシー

歴史学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、歴史学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

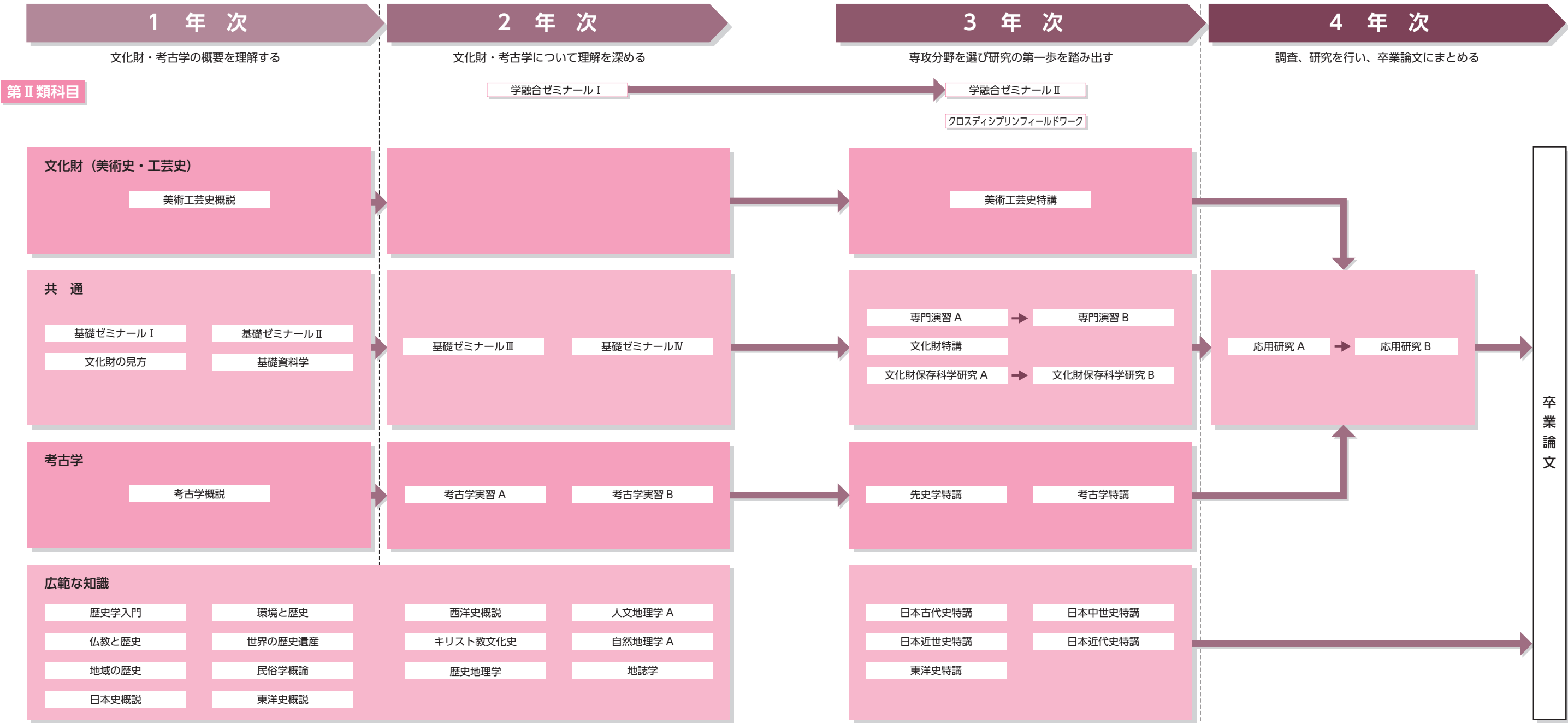
- ① 歴史についての幅広い知的好奇心をそなえ、専門的かつ広範な知識を身につけている。→「物事の本質を見極める力」
- ② 日本史学、東洋史学、文化財・考古学の実証的な研究方法を身につけている。→「根拠にもとづいて思考する力」

思考・判断・表現

- ③ 学びを進める中で物事の本質を見極め、自ら問いを立て、日本史学、東洋史学、文化財・考古学のいずれかの領域における研究方法を用いて、その問いを解決することができる。→「物事の本質を見極める力」「自分事として問いを立てる力」
- ④ 自らが学んだ知識や経験にもとづく考察を、客観的に口頭や文章で表現することができる。→「自分らしい方法で表現する力」
- ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑥ 日本史学、東洋史学、文化財・考古学の多様な学びを通じて、社会のさまざまな課題を自らの問題として捉え、主体的にそれらの解決に取り組む姿勢を身につけている。→「自分事として問いを立てる力」
- ⑦ 自らが学んだ領域を活かして、地域社会（コミュニティ）が抱える課題に対して、他者に共感してその解決に取り組むことができる。→「他者に共感する力」



※他分野の特講は必要に応じて選択

第Ⅱ類科目 文学部 歴史学科 授業科目一覧

部 門		授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通		学融合ゼミナールⅠ	2	2	
		学融合ゼミナールⅡ	3	2	
		クロスディシプリンフィールドワーク	3	2	
基 礎 部 門		基礎ゼミナールⅠ	1	2	5科目10単位必修
		基礎ゼミナールⅡ	1	2	
		基礎ゼミナールⅢ	2	2	
		基礎ゼミナールⅣ	2	2	
		歴史学入門	1	2	
		基礎資料学	1	2	
		仏教と歴史	1 2	2	
		地域の歴史	1 2	2	
		環境と歴史	1 2	2	
		世界の歴史遺産	1 2	2	
		人文地理学A	1 2	2	
		自然地理学A	1 2	2	
		歴史地理学	1 2	2	
分 野 別 基 礎 部 門	日本史系	日本史概説	1 2	2] 注1
		日本文化史A	1 2	2	
		日本の歴史書	1 2	2	
		古記録講読A	2	2	
		古記録講読B	2	2	
		古文書講読A	2	2] 注2
		古文書講読B	2	2	
	東洋史系	東洋史概説	1 2	2	※所属コースの科目を中心に履修すること
		東洋文化史	1 2	2	
		中国の歴史書	1 2	2	
		中国史文献講読	1	2	
		東洋文献講読A	2	2	
		東洋文献講読B	2	2	
	文化財・考古学系	考古学概説	1 2	2	
		美術工芸史概説	1 2	2	
		文化財の見方	1 2	2	
		考古学実習A	2	1	
		考古学実習B	2	1	
応 用 部 門	日本史系	日本古代史特講A	3 4	2	※所属コースの科目を中心に履修すること
		日本古代史特講B	3 4	2	
		日本中世史特講A	3 4	2	
		日本中世史特講B	3 4	2	
		日本近世史特講A	3 4	2	
		日本近世史特講B	3 4	2	
		日本近代史特講A	3 4	2	
		日本近代史特講B	3 4	2	
		日本史テーマ研究A	3 4	2	
		日本史テーマ研究B	3 4	2	
	東洋史系	東洋史特講A	3 4	2	
		東洋史特講B	3 4	2	
		東洋史テーマ研究A	3 4	2	
		東洋史テーマ研究B	3 4	2	
	文化財・考古学系	先史学特講	3 4	2	
		考古学特講	3 4	2	
		美術工芸史特講	3 4	2	
		文化財特講	3 4	2	
		文化財保存科学研究A	3 4	2	
		文化財保存科学研究B	3 4	2	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
関連資格部門	西洋史概説	1 2	2	注3
	民俗学概論	1 2	2	
	人文地理学B	2	2	
	自然地理学B	2	2	
	地誌学	2	2	
	キリスト教文化史	2	2	
	博物館概論	1 2	2	
	博物館資料論	2	2	
	博物館経営論	2	2	
	博物館資料保存論	2	2	
	博物館展示論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	2	
	博物館教育論	2	2	
	博物館実習Ⅰ－A		3 1	
	博物館実習Ⅰ－B		3 1	
	博物館実習Ⅱ		4 2	
専門研究部門	専門演習A		3 2	4単位必修
	専門演習B		3 2	
	応用研究A		4 2	4単位必修
	応用研究B		4 2	
教職関連部門	法律学概論（国際法を含む。）	2 3 4	2	
	政治学概論（国際政治を含む。）	2 3 4	2	
	社会学入門	2 3 4	4	
	経済学概論（国際経済を含む。）	2 3 4	2	
	哲学入門	2 3 4	2	
	現代倫理学	2 3 4	2	
	宗教学入門	2 3 4	2	
卒業論文	卒業論文		4 8	8単位必修

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

〔1〕別表の指示に従い履修すること。

〔2〕卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

〔3〕必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

1. 基礎ゼミナール、専門演習の履修は学科の指導にしたがうこと。

注1. 古記録講読Aを優先履修すること。

注2. 古文書講読Aを優先履修すること。

注3. 以下の科目は順次履修すること（先修制科目）。

博物館実習Ⅰ－A → 博物館実習Ⅰ－B → 博物館実習Ⅱ

（博物館実習Ⅰ－A・Ⅰ－Bは、同一内容・同一教員を重ねて履修できない）

表現学部



表現文化学科
メディア表現学科

1. ワークショップ・専門ゼミナール

実践を通じて、柔軟な思考力と表現技術を身につける。

- * コース別ワークショップ：各コースの専門性を重視したテーマに取り組み、自分の将来像につなげる「表現」を身につける。
- * 各学年のPBLを通して、協働・企画・創造・運営等、表現に関わる者としての基底について実践し、身につけ、それぞれの表現活動に結びつける。

2. 表現する ― 書く・話す・撮る・みせる

書くこと／話すことで世界とつながる。映像や音声で自分の考えを発信する。自分の作品で他人を楽しませる。卒業時には、学生のみなさんが大学において学んだことの集大成を形にしていけるよう、1年次のリベラルアーツ・表現基礎ゼミナールを通して、表現を学ぶ者としての基礎力を身につける。表現に共通する基礎、各コースの基礎を学ぶことによって基礎学修を進めることになる。そして、2年次からの専門学修を1歩1歩進めていくことが大切である。

3. 自分の作品・研究の集大成

4年間の学修を経て、自分の作品、研究の集大成をおこなう。そのためには、専門コースの基礎的技法を確実に身につけ、自らの作品を、他者の評価を通して練り上げていくことが不可欠である。

表現学部 表現文化学科

ディプロマポリシー

表現文化学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していかうとする学生を育成するために、表現文化学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

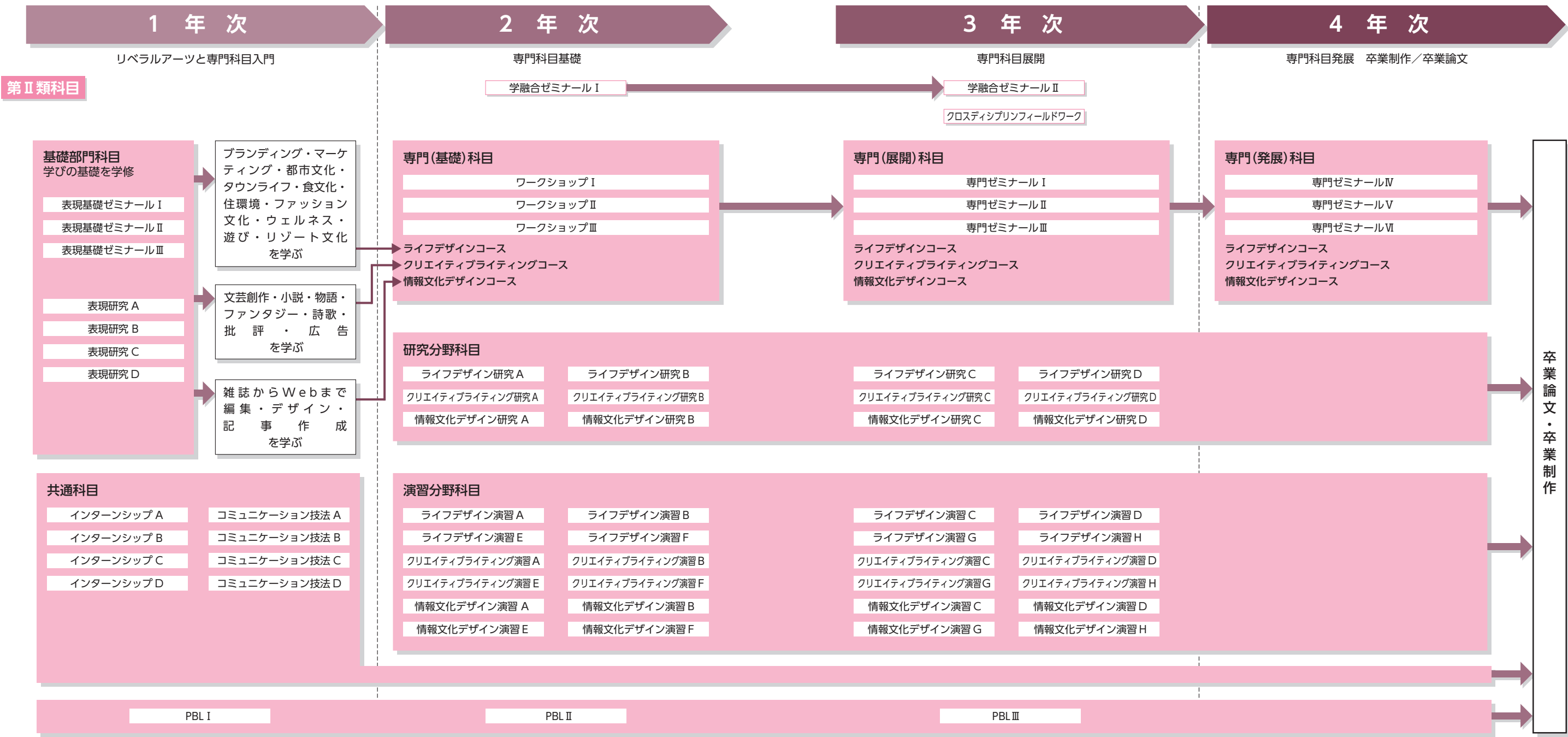
- ① 情報社会／現代社会の機構（mechanism）を知り、自己の表現技能を適切な方法で発揮できる。→「物事の本質を見極める力」
- ② 情報社会／現代社会の機能（function）を知り、自己の表現技能を役立てることができる。→「根拠にもとづいて思考する力」
- ③ 情報社会／現代社会における組織（system）を知り、他者との協働を視野に入れた表現技能を有している。→「他者と対話し、協働する力」
- ④ 専門課程で学ぶ専門的技能を用いて総合的に自分を表現する方法を知り、社会に向けて自分らしい表現を発信できる。→「新たな価値を創造する力」
- ⑤ 自ら設定した表現課題（クリエイティブライティング、情報文化デザイン、街文化プランニング〈ライフデザイン〉）を理解した上で、自分らしさを活かした構想をすることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自分らしい方法で表現する力」

思考・判断・表現

- ⑥ 純文学／大衆文芸、ファインアート／エンターテインメント、メインカルチャー／サブカルチャーなどの二項対立に安住せず、社会変容に応じた柔軟で自分らしいクリエイティブな思考・判断ができる。→「物事の本質を見極める力」「自分らしい方法で表現する力」
- ⑦ 多様な価値観や社会環境を理解しつつ、独自の視点や提案を持ち、広く社会一般に伝達することができる。→「他者に共感する力」「多様性を尊重する力」
- ⑧ 高度のメディアリテラシーを備え、説得力の高いコミュニケーション・情報発信ができる。→「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」
- ⑨ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑かつ多様な現代社会の課題に取り組むことができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑩ 日常生活とヴァーチャル生活とが混在する現代社会において、片方に偏することなく中道精神を貫くことができる。→「自分らしい方法で表現する力」
- ⑪ 自らの作品・表現をどのように発信していくべきかを理解し、社会の発展に資する新たな価値を創造できるオペレーションを身につけている。→「自分自身を理解する力」「新たな価値を創造する力」
- ⑫ 他者の作品や表現を評価するにあたっては、クリエイターの個性を尊重する態度とともに、物事の本質を見極め、正当な評価をしようとする姿勢を身につけている。→「他者に共感する力」
- ⑬ 他者と協働しながら作品を創造することの有用性を知り、共同作品の意義を理解している。→「他者と対話し、協働する力」



第Ⅱ類科目 表現学部 表現文化学科 授業科目一覧

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
	クロスディシプリンフィールドワーク	3	2	
基 礎 部 門	表現基礎ゼミナールⅠ	1	2	6単位以上選択必修
	表現基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	表現基礎ゼミナールⅢ	1	2	
	表現研究A	2 3 4	1	
	表現研究B	2 3 4	1	
	表現研究C	2 3 4	1	
	表現研究D	2 3 4	1	
研 究 部 門	ライフデザイン研究A	2 3 4	2	ワークショップ、専門ゼミナールなど必修を含め、専門とする分野を中心に70単位以上修得すること
	ライフデザイン研究B	2 3 4	2	
	ライフデザイン研究C	2 3 4	2	
	ライフデザイン研究D	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング研究A	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング研究B	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング研究C	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング研究D	2 3 4	2	
	情報文化デザイン研究A	2 3 4	2	
	情報文化デザイン研究B	2 3 4	2	
	情報文化デザイン研究C	2 3 4	2	
	情報文化デザイン研究D	2 3 4	2	
演 習 部 門	ライフデザイン演習A	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習B	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習C	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習D	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習E	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習F	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習G	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習H	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習A	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習B	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習C	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習D	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習E	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習F	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習G	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習H	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習A	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習B	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習C	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習D	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習E	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習F	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習G	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習H	2 3 4	2	
共 通 科 目	コミュニケーション技法A	2 3 4	2	
	コミュニケーション技法B	2 3 4	2	
	コミュニケーション技法C	2 3 4	2	
	コミュニケーション技法D	2 3 4	2	
	インターンシップA	1 2 3 4	1	
	インターンシップB	1 2 3 4	1	
	インターンシップC	1 2 3	1	
	インターンシップD	1 2 3	1	
P B L	PBLⅠ	1	6	必修
	PBLⅡ	2	6	
	PBLⅢ	3	6	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
ワークショップ	ワークショップⅠ	2	3	必修
	ワークショップⅡ	2	3	
	ワークショップⅢ	2	3	
専門ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	3	4	必修
	専門ゼミナールⅡ	3	4	
	専門ゼミナールⅢ	3	4	
	専門ゼミナールⅣ	3	4	
	専門ゼミナールⅤ	3	4	
	専門ゼミナールⅥ	3	4	
卒業研究	卒業論文	4	8	8単位選択必修
	卒業制作	4	8	

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

〔1〕別表の指示に従い履修すること。

〔2〕卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

〔3〕必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

表現学部 メディア表現学科

ディプロマポリシー

メディア表現学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、メディア表現学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 情報社会／現代社会の機構（mechanism）を高度に分析し、自己の表現技能において活用できる。→「物事の本質を見極める力」
- ② 情報社会／現代社会の機能（function）を知り、自己の表現技能において活用できる。→「多様性を尊重する力」
- ③ 情報社会／現代社会における組織（system）を高度に分析し、自己の表現技能において活用できる。→「他者対話し、協働する力」
- ④ 専門課程で学ぶプロフェッショナルな技能を駆使して総合的に自分を表現する方法を持ち、社会へ向けて自らの考えを発信できる。→「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」
- ⑤ 自ら設定した表現課題（放送・映像メディア、アート&エンターテインメントワーク）の属する知的領域の表現方法を理解し、構想することができる。→「新たな価値を創造する力」

思考・判断・表現

- ⑥ ハードウェア／ソフトウェア、ファインアート／エンターテインメント、メインカルチャー／サブカルチャーなど従来の二項対立を無批判に受け入れることなく、問題を自ら発見し、クリエイティブな思考、判断をすることができる。→「物事の本質を見極める力」
- ⑦ 他者との違いを認めて多様な価値観を理解し、自らの意見を論理的・創造的に再構築して社会一般に伝達することができる。→「根拠にもとづいて思考する力」
- ⑧ メディアリテラシーとエシカルに関する知識を基準に、コミュニケーション・情報発信ができる。→「根拠にもとづいて思考する力」
- ⑨ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑かつ多様な現代社会の課題解決に取り組むことができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑩ デジタル時代において必要不可欠とされる読解力、柔軟な思考力、コミュニケーション力の向上に対して貪欲に取り組む姿勢を堅持できる。→「他者対話し、協働する力」
- ⑪ 日常生活（自らの身体を通じた世界との接触）とヴァーチャル生活（メディアを通じた世界との接触）との二元的認識が所与の条件となった現代社会において、片方に偏することなく中道精神を貫くことができる。自らの作品や表現を社会の発展に活かすためのオペレーションを身につけている。→「自分自身を理解する力」
- ⑫ 他者の作品や表現を評価するにあたっては、クリエイターや創造をプロデュースする立場の個性を尊重し、深く理解したうえで正当な評価をしようとする姿勢を身につけている。→「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」
- ⑬ 他者と協働しながら作品を創造する喜びや有用性を知悉しており、共同作品を制作する意欲を有している。→「他者対話し、協働する力」



第Ⅱ類科目 表現学部 メディア表現学科 授業科目一覧

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	6 単位以上選択必修 ワークショップ、専門ゼミナールなど必修を含め、専門とする分野を中心に70単位以上修得すること
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
	クロスディシプリンフィールドワーク	3	2	
基 礎 部 門	表現基礎ゼミナールⅠ	1	2	
	表現基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	表現基礎ゼミナールⅢ	1	2	
	表現研究A	2 3 4	1	
	表現研究B	2 3 4	1	
	表現研究C	2 3 4	1	
	表現研究D	2 3 4	1	
研 究 部 門	放送・映像メディア研究A	2 3 4	2	
	放送・映像メディア研究B	2 3 4	2	
	放送・映像メディア研究C	2 3 4	2	
	放送・映像メディア研究D	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク研究A	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク研究B	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク研究C	2 3 4	2	
演 習 部 門	放送・映像メディア演習A	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習B	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習C	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習D	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習E	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習F	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習G	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習H	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習A	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習B	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習C	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習D	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習E	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習F	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習G	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習H	2 3 4	2	
共 通 科 目	コミュニケーション技法A	2 3 4	2	必修
	コミュニケーション技法B	2 3 4	2	
	コミュニケーション技法C	2 3 4	2	
	コミュニケーション技法D	2 3 4	2	
	インターンシップA	1 2 3 4	1	
	インターンシップB	1 2 3 4	1	
	インターンシップC	1 2 3	1	
	インターンシップD	1 2 3	1	
P B L	メディア表現PBLⅠ	1	6	
	メディア表現PBLⅡ	2	6	
	メディア表現PBLⅢ	3	6	
ワークショップ	ワークショップⅠ	2	3	必修
	ワークショップⅡ	2	3	
	ワークショップⅢ	2	3	
専門ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	3 4	3	必修
	専門ゼミナールⅡ	3 4	3	
	専門ゼミナールⅢ	3 4	3	
	専門ゼミナールⅣ	3 4	3	
	専門ゼミナールⅤ	3 4	3	
	専門ゼミナールⅥ	3 4	3	
卒 業 研 究	卒業論文	4	8	8 単位選択必修
	卒業制作	4	8	

- 履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。
 - 〔 1 〕 別表の指示に従い履修すること。
 - 〔 2 〕 卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。
 - 〔 3 〕 必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。
ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

地域創生学部



地域創生学科
公共政策学科

1. 地域実習、公共政策実習

1年生から3年生は毎年第3クォーターで地域実習（地域創生学科）、公共政策実習（公共政策学科）に取り組む。少人数のチーム編成で地域創生や公共政策についての実践知を習得する。

2. 地域創生学に関する科目群

専門の学びへの導入として、1年次には地域創生学入門を学部生全員が履修する。そして地域創生に関係する多様な理論的な科目や公共政策学に関するさまざまな領域に係る科目を選択する。

3. 各学年でのゼミナール科目と卒業研究

地域創生学ゼミナール（地域創生学科）や専門ゼミナール（公共政策学科）で実習経験と理論知を個人研究に発展させる。教員の専門分野に刺激を受け、各人の関心領域を学問的に分析・表現する手法を習得し、卒業研究として仕上げる。

地域創生学部 地域創生学科

ディプロマポリシー

地域創生学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していくとする学生を育成するために、地域創生学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

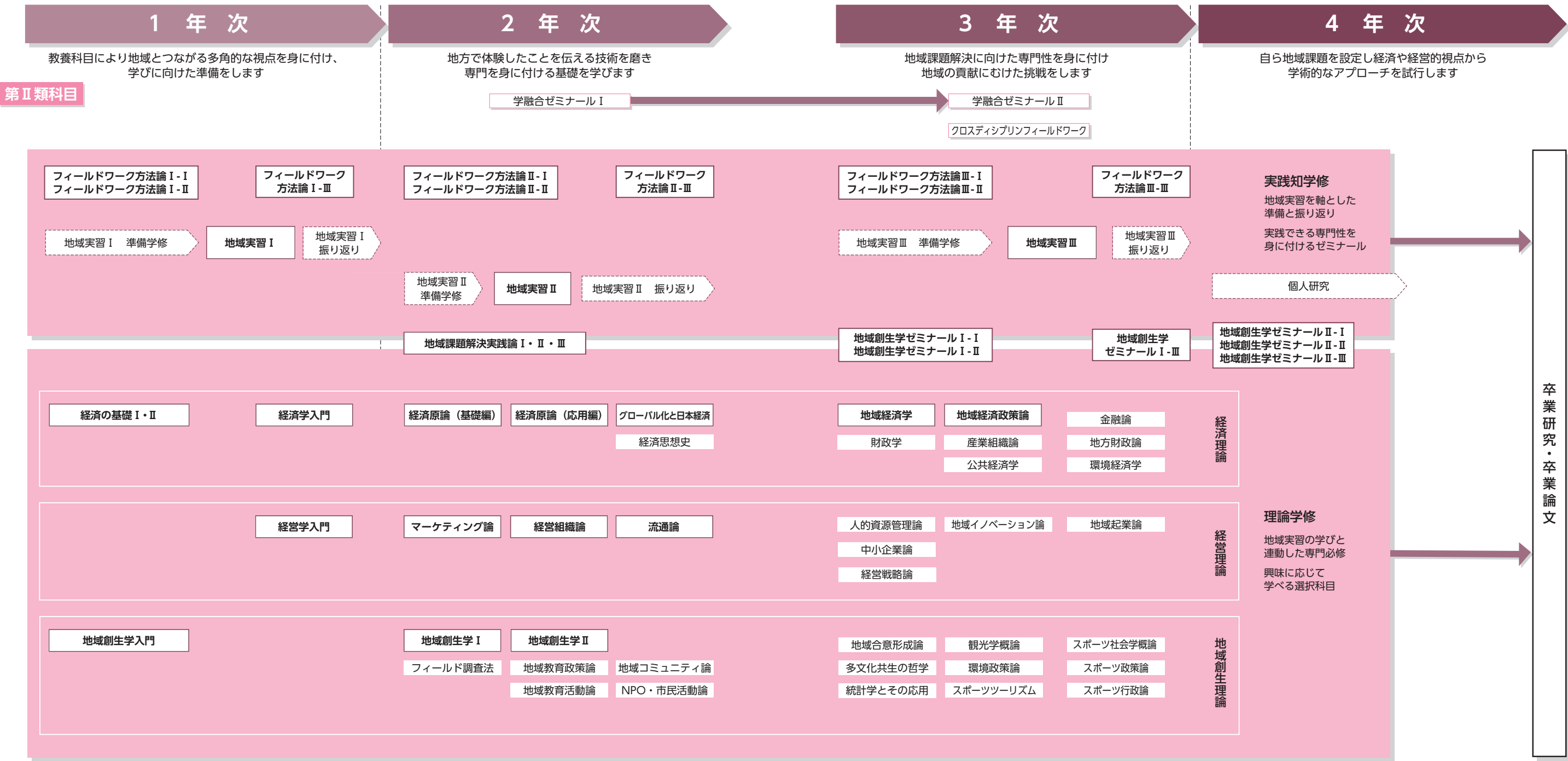
- ① 地域社会が直面している諸課題を深く考え、解決に向けた地域再生の取組や地域価値の創造に関する知識・教養を身につけている。→「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」
- ② 地域創生に必要な経済学・経営学等の基礎的知識を論理的に理解している。→「物事の本質を見極める力」
- ③ 学問領域で得た知識を、地域創生や地域振興の現場での実践力へと高めることができる。→「新たな価値を創造する力」

思考・判断・表現

- ④ 自らがテーマとした地域創生や地域活性化の方策について、経済・経営学的な思考を基礎として、関連する学問領域の研究手法を用いて考察することができる。→「自分事として問いを立てる力」
- ⑤ 経済学や経営学の知識や手法を用いて、地域の潜在的価値や能力、課題を発見できる。→「物事の本質を見極める力」
- ⑥ 他者の意見を取り入れ、自らの考えを的確に表現・伝達できる能力を身につけている。→「他者に共感する力」
- ⑦ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑧ 地域社会において地域創生や地域振興のリーダーとして、自身の役割を自覚し、課題を積極的に解決しようとする姿勢を有している。→「他者対話し、協働する力」
- ⑨ 学問領域で得た知識を活用し、地域創生や地域活性化の多様なニーズに応えようとする意欲や行動力を身につけている。→「多様性を尊重する力」
- ⑩ 他者と共に目標を達成することの意義を理解し、コミュニケーションを通じて相互理解や合意形成を実現しようとする姿勢が醸成されている。→「他者対話し、協働する力」



第Ⅱ類科目 地域創生学部 地域創生学科 授業科目一覧

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
	クロスディシプリンフィールドワーク	3	2	
学部共通部門	地域創生学入門	1	2	1科目2単位必修
理論科目群	基礎理論			4科目4単位必修
	経済の基礎Ⅰ	1	1	
	経済の基礎Ⅱ	1	1	
	経済学入門	1	1	
	経営学入門	1	1	
	経済理論			4科目4単位必修
	経済原論（基礎編）	2	2	
	経済原論（応用編）	2	2	
	グローバル化と日本経済	2 3 4	2	
	経済思想史	2 3 4	2	
	地域経済政策論	3 4	2	
	財政学	3 4	2	
	環境経済学	3 4	2	
	産業組織論	3 4	2	
	地域経済学	3 4	2	
	金融論	3 4	2	
	公共経済学	3 4	2	
	地方財政論	3 4	2	
	経営理論			
	マーケティング論	2 3 4	2	
	経営組織論	2 3 4	2	
	流通論	2 3 4	2	
	経営戦略論	3 4	2	
	人的資源管理論	3 4	2	
	地域イノベーション論	3 4	2	
	中小企業論	3 4	2	
	地域起業論	3 4	2	
	地域創生理論			
	地域創生学Ⅰ	2	2	
	地域創生学Ⅱ	2	2	
	地域コミュニティ論	2 3 4	2	
	NPO・市民活動論	2 3 4	2	
	地域教育政策論	2 3 4	2	
	地域教育活動論	2 3 4	2	
	多文化共生の哲学	3 4	2	
	地域合意形成論	3 4	2	
	観光学概論	3 4	2	
	環境政策論	3 4	2	
	シティズンシップ論	3 4	2	
	政策過程論	3 4	2	
	地域包括ケア論	3 4	2	
	文化とメンタルヘルス	3 4	2	
	自然環境保全論	3 4	2	
	統計学とその応用	3 4	2	
	フィールド調査法	2 3 4	2	
	スポーツツーリズム	3 4	2	
	スポーツ社会学概論	3 4	2	
	スポーツ政策論	3 4	2	
	スポーツ行政論	3 4	2	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
実践科目群	ゼミナール科目			
	地域創生学ゼミナールⅠ－Ⅰ	3	1	6単位必修
	地域創生学ゼミナールⅠ－Ⅱ	3	1	
	地域創生学ゼミナールⅠ－Ⅲ	3	1	
	地域創生学ゼミナールⅡ－Ⅰ	4	1	
	地域創生学ゼミナールⅡ－Ⅱ	4	1	
	地域創生学ゼミナールⅡ－Ⅲ	4	1	
	実習科目			
	フィールドワーク方法論Ⅰ－Ⅰ	1	1	9単位必修
	フィールドワーク方法論Ⅰ－Ⅱ	1	1	
	フィールドワーク方法論Ⅰ－Ⅲ	1	1	
	フィールドワーク方法論Ⅱ－Ⅰ	2	1	
	フィールドワーク方法論Ⅱ－Ⅱ	2	1	
	フィールドワーク方法論Ⅱ－Ⅲ	2	1	
	フィールドワーク方法論Ⅲ－Ⅰ	3	1	
	フィールドワーク方法論Ⅲ－Ⅱ	3	1	
	フィールドワーク方法論Ⅲ－Ⅲ	3	1	
	地域実習Ⅰ	1	6	12単位以上選択必修
	地域実習Ⅱ	2	6	
	地域実習Ⅲ	3	6	
	地域課題解決実践論Ⅰ	2 3	2	
	地域課題解決実践論Ⅱ	2 3	2	
	地域課題解決実践論Ⅲ	2 3	2	
卒業論文 卒業研究	卒業論文	4	8	8単位選択必修
	卒業研究	4	8	

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

〔1〕別表の指示に従い履修すること。

〔2〕卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

〔3〕必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

地域創生学部 公共政策学科

ディプロマポリシー

公共政策学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」と、現代社会に求められる「10の力」を、生涯を通じて体得していかうとする学生を育成するために、公共政策学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

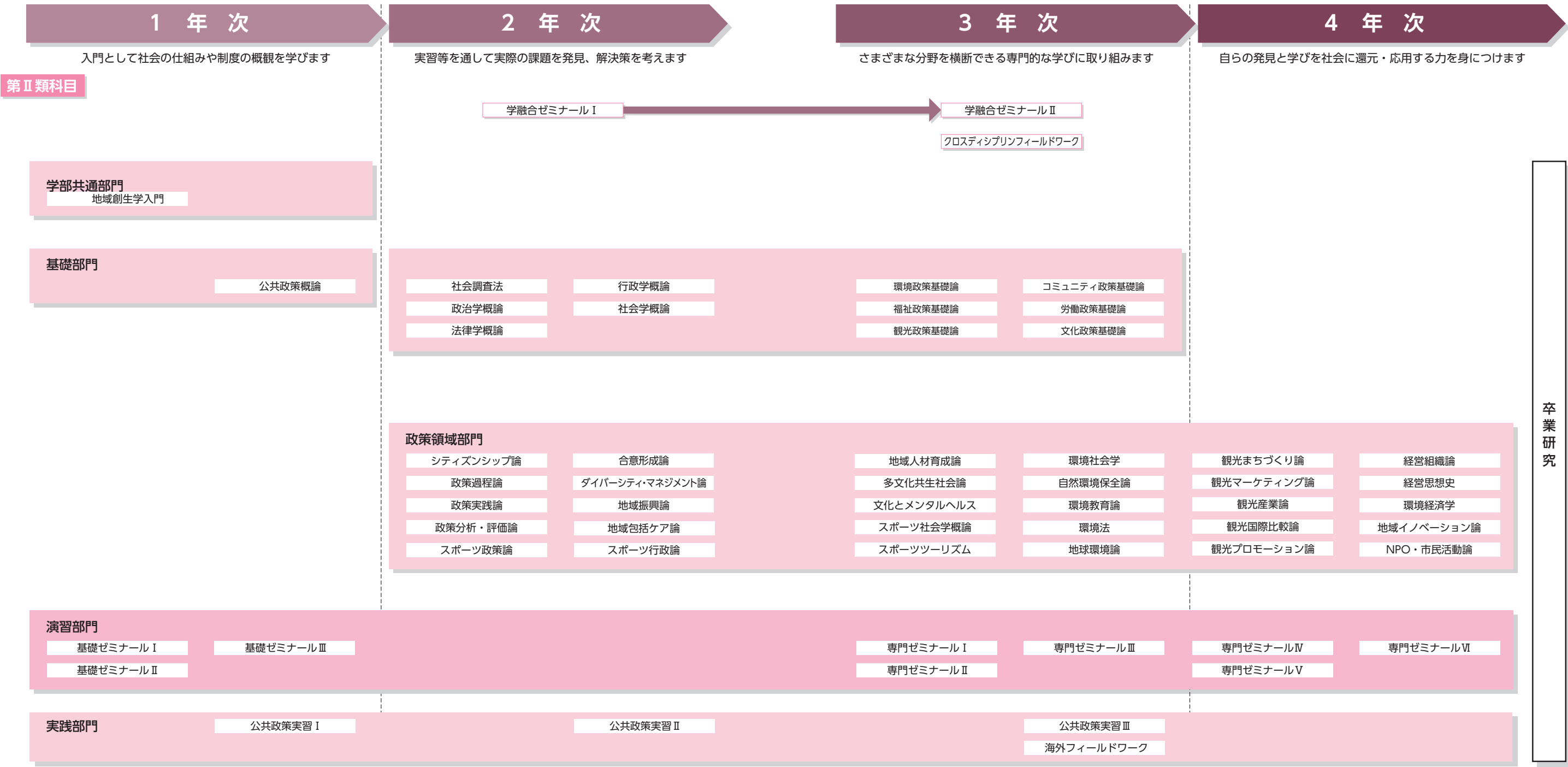
- ① 社会や地域が抱える公共政策上の諸課題の本質を理解している。→「物事の本質を見極める力」
- ② 政策立案に必要な政治学、行政学、法学、社会学等の基礎知識を理解している。→「根拠にもとづいて思考する力」
- ③ 得られた知識を社会や地域の課題解決の現場における実践力・共感力へと高めることができる。→「他者に共感する力」

思考・判断・表現

- ④ 自分自身がテーマとして取り上げた公共政策上の課題を解決するための方策について、関連する学問領域の研究手法を用いて考察することができる。→「自分事として問いを立てる力」
- ⑤ 修得した専門科目が扱う手法を用いて、さまざまな公共政策上の課題を発見、分析し、自ら表現することができる。→「自分らしい方法で表現する力」
- ⑥ 根拠にもとづき、さまざまな意見を取捨選択しながら取り入れ、自らの考えを的確に表現、伝達できる能力を身につけている。→「根拠にもとづいて思考する力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」
- ⑦ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。→「自分事として問いを立てる力」「自らの主張を吟味し、ふりかえる力」

関心・意欲・態度

- ⑧ 社会や地域において、公共政策上の課題を解決するため、自身の役割を自覚するとともに他者対話し、協働して課題を積極的に解決しようとする姿勢を身につけている。→「自分自身を理解する力」「他者対話し、協働する力」
- ⑨ 学領域での学修で得た知識を活用し、公共的課題を解決するために多様なステークホルダーのニーズに応えようとしている。→「多様性を尊重する力」
- ⑩ 他者と共に目標を達成しようとすることの意義を理解し、コミュニケーションを通じて相互の理解を通じて新たな価値を創造しようとする姿勢が醸成されている。→「新たな価値を創造する力」



第Ⅱ類科目 地域創生学部 公共政策学科 授業科目一覧

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
	クロスディシプリンフィールドワーク	3	2	
学部共通部門	地域創生学入門	1	2	1科目2単位必修
基 礎 部 門	公共政策学概論	1 2 3 4	2	2科目4単位必修
	社会調査法	2 3 4	2	
	政治学概論	2 3 4	2	4科目8単位以上選択必修
	法律学概論	2 3 4	2	
	行政学概論	2 3 4	2	
	社会学概論	2 3 4	2	
	環境政策基礎論	2 3 4	2	
	福祉政策基礎論	2 3 4	2	
	観光政策基礎論	2 3 4	2	
	コミュニティ政策基礎論	2 3 4	2	
	労働政策基礎論	2 3 4	2	
	文化政策基礎論	2 3 4	2	
政策領域部門	シティズンシップ論	2 3 4	2	9科目18単位以上選択必修
	政策過程論	2 3 4	2	
	政策実践論	2 3 4	2	
	政策分析・評価論	2 3 4	2	
	合意形成論	2 3 4	2	
	ダイバーシティ・マネジメント論	2 3 4	2	
	地域振興論	2 3 4	2	
	地域包括ケア論	2 3 4	2	
	地域人材育成論	2 3 4	2	
	多文化共生社会論	2 3 4	2	
	文化とメンタルヘルス	2 3 4	2	
	地球環境論	2 3 4	2	
	環境社会学	2 3 4	2	
	自然環境保全論	2 3 4	2	
	環境教育論	2 3 4	2	
	環境法	2 3 4	2	
	観光まちづくり論	2 3 4	2	
	観光マーケティング論	2 3 4	2	
	観光産業論	2 3 4	2	
	観光国際比較論	2 3 4	2	
	観光プロモーション論	2 3 4	2	
	経営組織論	3 4	2	
	経済思想史	3 4	2	
	環境経済学	3 4	2	
	地域イノベーション論	3 4	2	
	NPO・市民活動論	3 4	2	
	スポーツ社会学概論	2 3 4	2	履修対象者は別に指定する
	スポーツ政策論	2 3 4	2	
	スポーツ行政論	2 3 4	2	
	スポーツツーリズム	2 3 4	2	

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
演習・実習部門	基礎ゼミナールⅠ	1	2	12単位以上選択必修
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	基礎ゼミナールⅢ	1	2	
	専門ゼミナールⅠ		3	
	専門ゼミナールⅡ		3	
	専門ゼミナールⅢ		3	
	専門ゼミナールⅣ		4	
	専門ゼミナールⅤ		4	
	専門ゼミナールⅥ		4	
	公共政策実習Ⅰ	1	6	
	公共政策実習Ⅱ	2	6	
	公共政策実習Ⅲ		3	
	海外フィールドワーク	2 3 4	2	
卒業研究	卒業研究		4	8 必修

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

〔1〕別表の指示に従い履修すること。

〔2〕卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

〔3〕必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

第Ⅲ類科目

仏教学部
人間学部
臨床心理学部
文学部
表現学部
地域創生学部

第Ⅲ類科目の履修方法

教職・諸資格、自己研鑽、アントレプレナーシップ育成教育プログラムに関する科目で構成され、各自の将来の目標や、専門の学びから視野を広げるための科目が開設されている。

第Ⅲ類科目は、卒業までに24単位以上修得が必要である（ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位を、20単位まで第Ⅲ類科目に繰り入れることができる<15ページ参照>）。

なお、アントレプレナーシップ育成教育プログラムに配置される基礎科目「超スマート社会論」「新共生社会論」「地域人イズム論」「アントレプレナーシップ論」の4科目のうち2科目4単位は全学生が必ず履修・修得しなければならない。

1. 教職・諸資格に関する科目

免許状や資格を取得するためには、卒業要件とは別に、法律や認定団体が定める規定に従って開講している教職・諸資格に関する科目の単位を修得しなければならない。

教職・諸資格に関する科目の一部は、第Ⅲ類科目として位置づけ、学則に定める範囲で卒業単位として認定することができる。（詳細は、ガイダンスで確認すること。）

■資格の種類

教 職 課 程	免許状
司 書 教 諭	修了証 ※教職課程と同時履修
司 書	資格証明書
学 芸 員	資格証明書
僧 階	※各宗派の履修指導に従うこと

養成課程講座	日本語教員養成課程	修了証
	社会教化者養成講座	修了証、浄土宗の場合は任命書
	浄土宗開教使養成講座	修了証

2. 自己研鑽に関する科目

地域を題材とした学びと活動を一体化した科目、留学生との交流や文化に触れ、世界を広げるための科目など、フィールドに出て、自ら考え、主体的に行動することを目的とした科目である。また、外国語の学びを深め、海外語学研修や協定留学へのサポートへつなげている。

3.アントレプレナーシップ育成教育プログラムに関する科目

新ビジネス開拓、既存の仕事や事業の改革、人やコミュニティづくりなど新しいことに一歩を踏み出し、社会に貢献できる能力を「知識」と「実践」の融合により修得する科目である。講義では、様々な分野で活躍する方々から話を聞き、地域を題材とした学びと活動を一体化したワークショップやインターンシップなどの実践的な学びを通して、新しいことにチャレンジするアントレプレナーシップの修得を目指す。

プログラムは、基礎科目・スキル科目・実践科目から構成され、これらの科目を24単位以上修得することにより、修了証を授与する。

なお、基礎科目「超スマート社会論」「新共生社会論」「地域人イズム論」「アントレプレナーシップ論」の4科目のうち2科目4単位は全学生が必ず履修・修得しなければならない。

第Ⅲ類科目一覧

科目分類	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
A 群 (教職)	教育基礎論	2 3	2	仏教学科、人間科学科、臨床心理学科、人文学科、日本文学科及び歴史学科はA群～I群を履修対象とする。
	現代教職論	1 2 3	2	
	教育制度論	2 3	2	
	学習・発達論	2 3	2	
	特別支援教育論	2 3	1	
	教育課程論Ⅰ	2 3	2	社会福祉学科、表現文化学科、地域創生学科及び公共政策学科はF群及びH, I群を履修対象とする。
	教育課程論Ⅱ	2 3 4	2	
	道德教育の指導法	2 3	2	
	総合的な学習(探究)の時間及び特別活動の指導法	2 3	2	
	教育の方法と技術 (ICT活用を含む)	2 3	2	
	生徒・進路指導論	2 3	2	教職・資格に関する科目 (A群～E群) の履修については、学科及び資格によって異なる。
	教育相談	2 3	2	
	教育・現場体験A	2 3 4	2	
	教育・現場体験B	2 3 4	2	
	スクールソーシャルワーク論	2 3	2	
	教職特別研究A	3 4	2	
	教職特別研究B	3 4	2	
	教育実習A (中)	3 4	5	
	教育実習B (高)	3 4	3	
	教職実践演習 (中・高)	4	2	
	日本国憲法	2 3	2	
	体育	2 3	2	
	社会・地歴科教育法Ⅰ	2 3	2	
	社会・地歴科教育法Ⅱ	2 3	2	
	社会・公民科教育法Ⅰ	2 3	2	
	社会・公民科教育法Ⅱ	2 3	2	
	宗教科教育法Ⅰ	2 3	2	
	宗教科教育法Ⅱ	2 3	2	
	宗教科教育法Ⅲ	2 3	2	
	宗教科教育法Ⅳ	2 3	2	
	英語科教育法Ⅰ	2 3	2	
	英語科教育法Ⅱ	2 3	2	
	英語科教育法Ⅲ	2 3	2	
	英語科教育法Ⅳ	2 3	2	
	国語科教育法Ⅰ	2 3	2	
	国語科教育法Ⅱ	2 3	2	
	国語科教育法Ⅲ	2 3	2	
	国語科教育法Ⅳ	2 3	2	
	書道科教育法Ⅰ	2 3	2	
	書道科教育法Ⅱ	2 3	2	

次ページに続く

科目分類	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
B 群 (学芸員)	生涯学習概論	2 3	2	仏教学科、人間科学科、臨床心理学科、人文学科、日本文学科及び歴史学科はA群～I群を履修対象とする。
	博物館概論	2 3	2	
	博物館資料論	2 3	2	
	博物館資料保存論	2 3	2	
	博物館展示論	2 3	2	
	博物館経営論	2 3	2	社会福祉学科、表現文化学科、地域創生学科及び公共政策学科はF群及びH, I群を履修対象とする。
	博物館情報・メディア論	2 3	2	
	博物館教育論	2 3	2	
	仏教と歴史	2 3 4	2	
	日本の歴史書	2 3 4	2	
	中国の歴史書	2 3 4	2	教職・資格に関する科目（A群～E群）の履修については、学科及び資格によって異なる。
	東洋文化史	2 3 4	2	
	仏教美術研究A	2 3 4	2	
	仏教美術研究B	2 3 4	2	
	仏教美術研究C	2 3 4	2	
	日本文化総論	2 3 4	2	
	日本文学総論	2 3 4	2	
	民俗学概論	2 3 4	2	
	歴史地理学	2 3 4	2	
	美術工芸史概説	2 3 4	2	
	考古学概説	2 3 4	2	
	博物館実習Ⅰ－A		3 1	
	博物館実習Ⅰ－B		3 1	
	博物館実習Ⅱ		4 2	
C 群 (司書)	生涯学習概論	2 3 4	2	
	図書館概論	2 3 4	2	
	図書館情報技術論	2 3 4	2	
	図書館制度・経営論	2 3 4	2	
	図書館サービス概論	2 3 4	2	
	情報サービス論	2 3 4	2	
	情報サービス演習A	2 3 4	2	
	情報サービス演習B	2 3 4	2	
	図書館情報資源概論	2 3 4	2	
	情報資源組織論	2 3 4	2	
	情報資源組織演習A	2 3 4	2	
	情報資源組織演習B	2 3 4	2	
	児童サービス論	2 3 4	2	
	図書・図書館史	2 3 4	1	
	図書館サービス特論	2 3 4	1	
	図書館情報資源特論	2 3 4	1	
	図書館施設論	2 3 4	1	
D 群 (司書教諭)	学校経営と学校図書館	2 3 4	2	
	学校図書館メディアの構成	2 3 4	2	
	学習指導と学校図書館	2 3 4	2	
	読書と豊かな人間性	2 3 4	2	
	情報メディアの活用	2 3 4	2	

次ページに続く

科目分類	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
E 群 (日本語教員養成)	基礎日本語 A	2 3 4	2	仏 教 学 科、 人 間 科 学 科、 臨 床 心 理 学 科、 人 文 学 科、 日 本 文 学 科 及 び 歴 史 学 科 は A 群～I 群を履修対象とする。
	基礎日本語 B	2 3 4	2	
	基礎日本語 C	2 3 4	2	
	音声学研究 A	2 3 4	2	
	言語学研究 A	2 3 4	2	
	日本語学総論	2 3 4	2	
	日本語教育研究 A	2 3 4	2	社会福祉学科、表現文化学科、 地域創生学科及び公共政策学科は F 群及び H, I 群を履修対象とする。
	日本語教育研究 B	2 3 4	2	
	日本語教育研究 C	2 3 4	2	
	日本語教育研究 D	2 3 4	2	
	日本語教育研究 E	2 3 4	2	
	日本語教育研究 F	2 3 4	2	
	異文化コミュニケーション I	2 3 4	2	教職・資格に関する科目 (A 群 ～E 群) の履修については、学 科及び資格によって異なる。
	日本語教育実習	3 4	1	
F 群 (自己研鑽に関する 科目)	地域プロジェクト I	2 3 4	2	
	地域プロジェクト II	2 3 4	2	
	インターンシップ	2 3 4	2	
	ボランティア	1 2 3 4	2	
	仏教研修	1 2 3 4	2	
	仏教フィールドワーク	1 2 3 4	2	
	語学研修英会話	1 2 3 4	2	
	語学研修ドイツ語会話	1 2 3 4	2	
	語学研修中国語会話	1 2 3 4	2	
	語学研修韓国語会話	1 2 3 4	2	
	アメリカ文化論	1 2 3 4	2	
	ドイツ文化論	1 2 3 4	2	
	中国文化論	1 2 3 4	2	
	韓国文化論	1 2 3 4	2	
	ドイツ語コミュニケーション I	1 2 3 4	2	
	ドイツ語コミュニケーション II	1 2 3 4	2	
	中国語コミュニケーション I	1 2 3 4	2	
	中国語コミュニケーション II	1 2 3 4	2	
	韓国語コミュニケーション I	1 2 3 4	2	
	韓国語コミュニケーション II	1 2 3 4	2	

次ページに続く

科目分類		授業科目の名称	履修年次				単位	備 考
G 群 (スポーツ関連科目)		スポーツ社会学概論	1	2	3	4	2	履修対象者は別に指定する
		スポーツ政策論		2	3	4	2	
		スポーツ行政論		2	3	4	2	
		スポーツツーリズム			3	4	2	
		スポーツとまちづくり			3	4	2	
		スポーツとホスピタリティ	1	2	3	4	2	
		生涯スポーツ論		2	3	4	2	
		スポーツ経営管理論		2	3	4	2	
		スポーツビジネス論			3	4	2	
		スポーツイベント概論			3	4	2	
		スポーツ医科学	1	2	3	4	2	
		スポーツコーチング論		2	3	4	2	
		スポーツクラブマネジメント論		2	3	4	2	
		スポーツトレーニング演習			3	4	2	
		スポーツファシリティマネジメント			3	4	2	
H 群 (ウェルビーイング 科目)		ウェルビーイング概論			3	4	2	
		仏教とウェルビーイング			3	4	2	
		身体と心の健康科学			3	4	2	
		倫理と幸福の哲学			3	4	2	
		ウェルビーイング応用実践			3	4	2	
		ウェルビーイングPBL			3	4	2	
I 群 (アントレプレナー シップ育成教育 プログラム)	基礎科目	超スマート社会論			3	4	2	4 単位選択必修（全学生） ◆ 3 科目 6 単位選択必修 （基礎科目）
		地域人イズム論			3	4	2	
		アントレプレナーシップ論			3	4	2	
		イントレプレナーシップ論			3	4	2	
		パブリックサービス論			3	4	2	
	応用科目	ロジカルシンキング			3	4	2	◆12単位選択必修 （スキル科目）
		データ分析技法			3	4	2	
		プログラミングの基礎			3	4	2	
		ファイナンスの基礎			3	4	2	
		財務会計の基礎			3	4	2	
		マーケティングの基礎			3	4	2	
		言語表現技術			3	4	2	
		情報表現技術			3	4	2	
		キャリア探究A			3	4	2	
		キャリア探究B			3	4	2	
		キャリアデザインA			3	4	2	
		キャリアデザインB			3	4	2	
		コミュニケーション			3	4	2	
		リーダーシップ			3	4	2	
		ファシリテーション			3	4	6	
		プレゼンテーション			3	4	6	
		マネジメント			3	4	6	
		ビジネス英語			3	4	6	
		ビジネス中国語			3	4	6	

◆ I 群
アントレプレナーシップ育成教育プログラム履修者に対し必要な単位数とする。

次ページに続く

科目分類		授業科目の名称	履修年次				単位	備 考
Ⅰ 群 (アントレプレナー シップ育成教育 プログラム)	融合・実践 科目	学融合PBL (旅する大学) A			3	4	6	◆6単位選択必修 (実践科目)
		学融合PBL (旅する大学) B			3	4	6	
		学融合PBL (旅する大学) C			3	4	6	
		マイスターワークショップ			3	4	6	
		マイスターフィールドワーク			3	4	6	
		マイスターインターンシップ			3	4	6	
		短期留学			3	4	6	
		海外インターンシップ			3	4	6	
Ⅱ 群 (留学生科目)		日本語研究A	1	2	3	4	2	留学生のみ履修可能
		日本語研究B	1	2	3	4	2	
		日本語研究C	1	2	3	4	2	
		日本語研究D	1	2	3	4	2	
		日本語研究E	1	2	3	4	2	
		日本語研究F	1	2	3	4	2	
		日本語研究G	1	2	3	4	2	
		日本語研究H	1	2	3	4	2	
		日本語研究I	1	2	3	4	2	
		日本語文化研究	1	2	3	4	2	

◆Ⅰ群

アントレプレナーシップ育成教育プログラム履修者に対し必要な単位数とする。

規 程

大正大学履修規程

大正大学試験規程

授業欠席の取扱いに関する規程

大正大学学則

(抜粹)

大正大学履修規程

(目的)

第1条 この規程は、大正大学学則（以下「学則」という。）のうち、履修等について必要な事項を定めることを目的とする。

(授業科目の履修)

第2条 授業科目は、入学年度の学則別表及びコースごとの履修方法を記載した大正大学履修要項に従い履修しなければならない。

2 編入学は、編入学した学年の規定を適用する。

(履修登録)

第3条 授業科目の単位を修得するためには、学期ごとに定める履修登録期間に履修を希望する科目を登録しなければならない。

2 正当な理由により、指定期間内に登録ができない場合は、あらかじめその理由を付して届け出なければならない。

3 大学は、必要に応じて授業科目ごとに定員を設け、抽選等による選抜を行うことがある。

(登録の制限)

第4条 次の各号の一に該当する授業科目は、登録することができない。

(1)既に単位を修得した授業科目

(2)同一時限に開講される授業科目

(3)同一学期内の同一授業科目

(4)配当履修年次以外の授業科目

(登録の修正)

第5条 登録した科目を修正しようとする場合は、学期ごとに定める期間に行わなければならない。

(登録の確定)

第6条 履修登録は、確認表の交付（電子的な申請の場合は、これを確認できる画面）をもって確定する。

(登録の取消)

第7条 大学は、履修登録者数が5名以下の授業科目について原則として休講とし、当該科目の履修登録を取消すものとする。ただし、次の各号の一に該当する場合は、この限りではない。

(1)外国語の上級科目

(2)第Ⅱ類科目のうち、卒業論文又は卒業研究等に必要不可欠な科目

(3)諸資格を取得するために必要な科目

(制限単位)

第8条 学則第23条第4項に基づく学期ごとに登録できる単位数は、次のとおりとする。

学 部	制限単位	備考(記載の期間ごと)
仏教学部	12	クォーター制
人間学部	12	
臨床心理学部	12	
文学部	12	
表現学部	12	クォーター制 ただし第3クォーターにあっては10単位とする
地域創生学部	12	

2 制限単位には、第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目の単位を通算する。

3 通年開講科目、年度跨り科目の単位数は、当該科目が開講される年度の学期に等分する。

4 集中講義期間開講科目の単位数は、履修制限単位に含めないものとする。

5 夏期及び春期休業期間中に開講する科目、学長が指定する科目及び第Ⅰ類科目の再履修科目にかかる取扱いについては、別に定める。

6 表現学部、地域創生学部における第3クォーターの制限単位のうち、4単位分は、第Ⅲ類アントレプレナーシップ育成教育プログラムにかかる科目の対応とする。

(成績評価の基準)

第9条 授業科目の成績評価は、学則第45条の評語で行う。

判定	評語	基 準
合 格	A A	目標を大きく超えて優秀 (Excellent : 秀)
合 格	A	目標を超えて優秀 (Very good : 優)
合 格	B	目標を十分に達成している (Good : 良)
合 格	C	単位を認める最低限の基準に達している (Pass : 可)
不合格	D	単位を認める最低限の基準に達していない (Failure : 不可)
不合格	Z	学修行動が見られない (No learning : 否)
合 格	T	目標を達成している (Recognition : 認定)

2 学業平均値（以下「GPA」という。）を算出するため、前項の評語に次のとおりポイントを付与する。

評 語	ポイント
A A	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
D	0.0
Z	0.0

3 GPAは、履修登録した授業科目の単位数にポイントを乗じた数の総和を履修登録単位数の総和で除したのち小数点第3位以下を切り捨てて算出し、得られたGPAの総合評価は、次のとおりとする。

GPA ($=\alpha$)	総合評価
$3.5 \leq \alpha \leq 4.0$	最優秀
$3.2 \leq \alpha < 3.5$	優
$1.6 \leq \alpha < 3.2$	良
$1.0 \leq \alpha < 1.6$	可

(第Ⅱ類科目として修得した単位の取扱)

第10条 第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までの範囲で学則第38条第1項第3号の第Ⅲ類科目に替えて卒業に必要な単位に繰り入れることができる。

(他の大学又は大学以外の教育施設等の単位の認定)

第11条 学則第39条の2及び第39条の3により単位を認定する学修は、次のとおりとする。

(1)課外学習

(2)協定校の授業科目

(3)資格試験

(4)企業等での就業体験

(入学前の既修得単位等の認定)

第12条 学則第39条の4に基づく既修得単位の認定は、学校種及び修得科目を勘案して第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目として包括的に行うものとし、その際の成績評価は、「T」とする。

(留年)

第13条 学則第23条第1項から第3項又は学則第58条に定める基準をそれぞれ満たすことができない場合は、留年とする。

2 第1学年から第3学年の間の同一学年の在学期間は、それぞれ2年(4学期)を限度とし、第1学年から第4学年を通算して8年(16学期)を超えることができない。ただし、編入学生は学則第22条第2項の修業年限のみ適用する。

(退学)

第14条 次の各号の一に該当する場合は、学則第50条第1項第2号により退学とする。

(1)前条第2項の期間が満了する者

(2)3学期連続してGPA1.0未満の者

(転学部等)

第15条 他の学部、学科又はコースへの転籍は、収容定員に欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。

2 選考を受けようとする者は、学長に願い出て許可を得なければならない。

3 前項の出願資格は、次のとおりとする。

(1)出願時に、第1学年又は第2学年に在学中の者

(2)他の学部、学科への転籍の場合は、既に進級基準を満たしている者あるいは満たす見込みの者で、出願時のGPAが3.2以上の者

(3)同一学科内の他コースへの変更を希望する場合は、既に進級基準を満たしている者あるいは満たす見込みの者

(改廃)

第16条 この規程の改廃は、代議員会の議を経て、学長が行う。

附 則

1 この規程は、令和6年4月1日から施行する。

2 第8条第6項の規定にかかわらず、令和3年3月31日に在籍する者は、従前の例による。

大正大学試験規程

(目的)

第1条 この規程は、大正大学学則第43条による試験の取扱いについて定める。

(試験の種類)

第2条 試験の種類は、授業内試験及び再試験とする。

(授業内試験)

第3条 試験は、原則として学期ごとの授業期間内に各履修科目の授業内で行う。

2 前項の試験は、随時のレポート等に代えることができる。

(再試験)

第4条 再試験は、原則として最終学年に在学する者のうち、実験実習科目を除く卒業に必要な単位数が4単位以内不足かつ当該科目の成績評価がD評価に該当する者に対して実施することができる。

2 再試験実施の可否は、当該学生の所属する学科長の意見を聴取した後、当該学生の履修状況等を踏まえ、教学運営協議会の意見を徴し、学長がこれを決定する。また、当該学科長は、必要に応じて当該科目の担当教員から意見を聴取するものとする。

3 その他、再試験の実施に関して必要な事項は、再試験の都度、教学運営協議会において定める。

第5条 前条第2項による再試験実施の決定を受けた者は、速やかに再試験願(本学所定用紙)を教務課に提出しなければならない。

第6条 再試験を合格した者の受験科目の成績評価は、「C」又は「T」とする。

(試験料)

第7条 再試験を受験する者は、「諸資格課程料等に関する細則」に定める試験料を納入しなければならない。

(試験の方法)

第8条 試験は、筆記試験、レポート試験、実技試験、口述試験又は当該科目の担当教員が指示する方法によって行うものとする。

(試験時間)

第9条 授業内試験及び再試験の試験時間は原則として60分とする。ただし、必要に応じて試験時間を変更して行うことができる。なお、授業内試験においては、1时限の内に授業等学修活動と試験をあわせて執り行うものとする。

(受験資格の欠落事由)

第10条 次の各号の一に該当する者は、第2条の試験を受験することができない。

(1)試験が行われる学期において、当該科目の履修登録をしていない者

(2)試験開始後、20分を超えて遅刻した者

(3)学費を指定期間内に納入していない者

(4)休学中の者

(5)停学中の者

(受験者の義務)

第11条 受験者は、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

(1)試験監督者又は当該授業担当教員の指示に従うこと

(2)答案に学籍番号、氏名等を記入すること

(無効答案)

第12条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1)受験者が特定できない場合
- (2)第10条各号の一に該当することが明らかになった場合
- (3)不正行為により解答を得たと認められる場合

(不正行為)

第13条 試験における不正行為は、次の各号の一に該当する行為をいう。

- (1)当該試験において許可されている以外の方法で解答を得たとき
- (2)当該授業の履修登録者以外が履修登録者と偽って受験したとき
- (3)他人の答案又は成果物を複写もしくは盗用したとき

2 前項各号の行為の教唆又は協力も同様の行為と見なす。

(不正行為の確認)

第14条 試験監督又は担当教員が不正行為を認めたときは、速やかに教務部長に報告しなければならない。

2 教務部長は、直ちに当該学生が所属する学科の学生生活委員立会いのもと不正行為の事実確認を行うものとする。

3 教務部長は、前項により不正の事実を確認した場合、本人（前条第2項に該当する者がある場合は、これらの者を含む）に始末書を提出させるとともに学部長に報告しなければならない。

4 第1項の現認が試験場における試験の場合は、直ちに当該試験の受験を中止させ解答用紙を回収したうえで退場を命ずるものとする。

(不正行為を行った者の処分)

第15条 不正行為を行った者に対しては、当該学期の履修科目すべてをZ評価としたうえで、その処分は懲戒に関する細則によるものとする。

(改廃)

第16条 この規程の改廃は、代議員会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、令和3年8月25日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

授業欠席の取扱いに関する規程

(目的)

第1条 この規程は、学生が授業を欠席する場合の取扱いについて必要な事項を定める。

(内容)

第2条 学生が忌引き、感染症の罹患等、やむを得ない理由により授業を欠席する場合、当該学生の不利益とならないよう、大学が欠席事由の証明を行う。

(申請手続き)

第3条 次の各号の一に該当する場合には、当該学生の欠席について内容を証明する。

- (1)忌引き等
 - 父母・配偶者・子女 7日間
 - 祖父母・配偶者の父母・兄弟姉妹 5日間
- (2)学校保健安全法で定められている感染症による出席停止
- (3)大学が認めた課外活動
- (4)骨髄バンク等移植に伴うドナー登録及び検査に関わる欠席
- (5)裁判員制度で裁判員として出廷する場合
- (6)各種資格課程の学外学習及び僧階に関する各宗派加行・研修
- (7)担当教員が引率・指導する大学公認の学外学習、調査、見学、実技及び研修旅行
- (8)その他学長が特別に認めた場合

2 前項の規定により証明を受けた者は、原則として1週間以内に証明書を授業担当教員に提出しなければならない。

(証明書等の添付)

第4条 前条第1項により証明を受ける者は、次の各号に掲げる証明書等を添付しなければならない。

(1)前条第1項第1号 会葬礼状等死亡を証明する書類

(2)前条第1項第2号 医師の診断書又はそれに準じるもの

(3)前条第1項第3号～第8号 欠席の事由を証明する書類等

(改廃)

第5条 この規程の改廃は、代議員会の議を経て、学長が行う。又は当該科目の担当教員が指示する方法によって行うものとする。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

大正大学学則（抜粋）

（修業年限）

第21条 学部の修業年限は、4年（8学期）とする。

（在学年限）

第22条 学生の在学年限は、8年（16学期）を超えることができない。

2 編入学生の在学年限は、4年（8学期）を超えることができない。

（進級）

第23条 入学後1年（2学期）以上在学し、20単位以上修得した者は、第2学年に進級する。

2 第2学年に1年（2学期）以上在学し、62単位以上修得した者は、第3学年に進級する。

3 第3学年に1年（2学期）以上在学し、90単位以上修得した者は、第4学年に進級する。

4 前項までの条件に併せて、各学年及びセメスター又はクォーターごとに、履修単位数の上限を別に定める。

（履修登録）

第41条 学生は、学期の始めに履修しようとする授業科目を登録するものとする。

（試験）

第43条 試験は、授業内等の試験と卒業論文試験又は卒業研究試験とする。

（単位の認定）

第44条 単位認定の基準は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間から45時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合、これに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

3 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項各号の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

（退学）

第49条 学生が疾病又はその他の理由により退学しようとするときは、所定の様式により、その事由を証明する書類（疾病の場合は診断書）及び学生証を添付して、保証人と連署のうえ願出しなければならない。

2 学年の途中で退学する者は、当該納期分の学費等を納入しなければならない。

第50条 学生が次の各号の一に該当するときは、これを退学させる。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 学校の秩序を乱し、その他学生として本分に反した者

2 前項第1号及び第4号による退学は、代議員会の議を経て学長が決定する。

3 第1項第2号及び第3号による退学は、学長が決定する。
（除籍）

第51条 学生が次の各号の一に該当するときは、これを除籍する。

(1) 定める期間内に学費を納入しない者

(2) 学則第22条に定める期間に卒業できない者

(3) 学則第46条第2号に定める休学期間を超えてもなお復学できない者

(4) 死亡した者

2 前項による除籍は、学長が決定する。

3 第1項第1号による除籍は、学期ごとに行う。

4 前項の定めにかかわらず、第74条による延納許可を受けた者が、延納期限日までに当該学費等を納入しない場合は、当該期限日の翌日をもって除籍する。

5 第1項第1号により除籍された者は、除籍日より15日以内に除籍の取消しを願出することができる。

6 第1項第4号の死亡した者の除籍日は、死亡した日とする。

第52条 除籍となった者は、退学を願出することはできない。

（卒業）

第58条 本学に4年（8学期）以上在学し、第Ⅰ類科目30単位、第Ⅱ類科目70単位以上、第Ⅲ類科目24単位以上、合計124単位以上を履修した者には学士の学位を授与する。

2 卒業の時期は、学年の終わりとする。ただし、学年の途中においても、学期の区分に従い、学生を卒業させることができる。

（懲戒）

第61条 本学に在籍する者で本学の学則及び規則に違反し、又は学生の身分にもとまり、本学の名誉を毀損する行為ある者及び成業の見込みのない者は、代議員会の議を経て学長がこれを懲戒する。

第62条 懲戒は譴責、謹慎、停学及び退学とする。

あとがきに代えて

本学は大正15年に設立され、数々の分野で実績を残してきました。
新しい世紀を迎えましたが、本学設立の精神は、時代が移り変わってどんな社会状況となっても永久に不動のものと確信しています。
ここに初代学長の建学のことばの抜粋を揚げ、その意図するところを学生のみなさんとともに探究していきたいと思います。

建学のことばより

新たに生れ出た大正大学には宗教的敬虔の心持に、大乘仏教的精神を力強く發揮させねばならぬと考えます。教授・講師は申すまでもなく、学生も知識否、智慧の熱愛者であり、謙遜真摯の態度を以て真理を求めて已まざるものであってほしい。道徳と道理の前には極めて従順であると共に、悪と非理に対しては一步も屈せざる勇気が溢れることを望みます。必ずしも神秘とは言わない不思議とは申しませんが、何となく聖く儼かな靈的な雰囲気が学内に漂って居って、来って此学園に学ぶ者を薰化し感孚するものがあればと存じます。近世世界の文明国を通して自我の覚醒を見んとするは貴ぶべきことでありますが、自己個人の小なる権利、それは仏祖が極力呵責し給いし、我欲我執を滔々として主張する風ある間に立ちて、あくまで利他を念として忘れないようにありたいと存じます。

率直に自己の過失罪惡を懺悔すると共に、本来具する仏性を開顯して、人格の完成に猛然と精進することを望んでおります。少なくとも善を賛美する優しい心と悪に近づかない猛き気を持ちたいと存じます。かかる願望を一步一步満足し行く所に本大学存在の意義が明らかにされるものと信じます。

大正15年11月5日 創立記念式典にて
初代学長 澤柳 政太郎